DESCENTE

生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

男子優勝の大同特殊鋼

女子優勝の大崎電気

第9回日本リーグ最終結果

大同特殊鋼 2年ぶり 栄冠奪回

（女子）大崎電気全勝で初Vを飾る

第9回日本リーグは、11月17日最終日を迎え、男子は大同特殊鋼と湧水製薬の両雄対決は白熱した闘いだった。結局、大同が終了寸前に劇的な同点シュートを決め、引き分けながら2年ぶりのV奪回に成功した。湧永はいったんは逆転、2年連続Vにあと一歩まで迫りながら逃げ切れなかった。第3週の日新製鋼戦の敗戦が大きくひびいた。

女子は、すでに第4週で初優勝を決めていた大崎電気が、最終戦の日立栃木戦も快勝、全勝で初Vを飾った。

●後期第5週第1日（11月3日）＝広島市安芸区スポーツセンター

〈女子〉

大和銀行24 （13—8、11—8） 16東京重機
（3勝3敗）　（6敗）

○…前半、重機の攻撃ミスにつけこんで大和は11分で7—1と大きくリードしたが、重機もベテラ

〔重機〕	深瀬	石井	山崎	市川	中本	森田	呑村	沖山	大前	渡辺	矢田	安田	計
得	0	0	2	2	1	4	0	4	1	2	0	0	16

GK：深瀬、石井　FP：山崎〜安田　PT (0)

〔大和〕	高浜	松本	秋成	高橋	川添	若水	馬渡	天谷	植田	上西	赤瀬	佐々木	計
得	0	0	2	4	5	1	6	2	1	2	0	1	24

GK：高浜、松本　FP：秋成〜佐々木　PT (3)
（審・東、中本）

ン沖山の活躍で踏んばり、大和が13—8と5点リードで前半終了。

後半、重機は森田、市川、山崎で4分より連続4得点し、12—15と3点差まで追い上げたが、地力に勝る大和はエース秋成の気迫のシュートで再び態勢をたて直し、馬渡、高橋らのシャープな攻撃が冴えて確実に得点を重ね、20分21—15として試合の態勢を決めた。

重機は、ルーキー市川、安田らで懸命に反撃を試みるが、シュートの詰めが甘く、終盤残り10分で森田の1ゴールのみと追撃ペースが伸びなかった。

〈男子〉

湧永製薬20 （9—8、11—6） 14三陽商会
（3勝1敗）　（1勝4敗）

〔三陽〕	大山	田村	関	田口	坪子	砂川	山口	石原	鵜沢	安藤	河村	吉原	計
得	0	0	3	1	0	3	4	2	1	0	0	0	14

GK：大山、田村　FP：関〜吉原　PT (1)

〔湧永〕	大城	井藤	池ノ上	生駒	穂積	藤本	志賀	内田	松本	山本	原田	楢原	計
得	0	0	3	3	1	3	1	1	2	6	0	0	20

GK：大城、井藤　FP：池ノ上〜楢原　PT (3)
（審・古富、赤池）

○…前半出だしに湧永が連続3得点したあたりは、湧永の一方的な試合になるかに見えたが、三陽も5分から10分間湧永に得点を与えず、砂川、山口らでジリジリと追い上げ、前半は9—8と湧永のリードは僅か1点。

後半も三陽の健闘が続き、GKの巧守も光って20分過ぎまで12—12とシーソーゲームが展開されコートサイドを沸かせた。

調子の波に乗れない湧永ベンチにいら立ちのムードが漂い出したが、藤本のPTで再びリードを奪った直後、池ノ上、山本で3連続ゴールを成功して一気にエンジンを全開させ、終盤にはそれまでの拙攻のうっぷんを晴らすかのように山本、内田らで矢つぎ早の得点を三陽ゴールに浴びせかけ、20—14で3勝目を記録した。

後半20分まで互角の試合運びで気を吐いた三陽だったが、湧永の連続ゴールで緊張の糸が切れ、それまでの善戦をフイにしてしまった。

●後期第5週第2日（11月4日）＝福岡県立久留米体育館

〈女子〉

ブラザー工業22 （8—11、14—8） 19東京重機
（1勝6敗）　（7敗）

〔重機〕	深瀬	石井	山崎	市川	森田	呑村	古谷	沖山	大前	渡辺	矢田	安田	計
得	0	0	3	7	1	0	1	0	3	3	0	1	19

GK：深瀬、石井　FP：山崎〜安田　PT (1)

〔ブ工〕	畑添	大藪	原田	竹内	赤井	中村	増永	太田	奥山	松下	室屋	荒木	計
得	0	0	0	6	3	3	2	4	0	1	0	3	22

GK：畑添、大藪　FP：原田〜荒木　PT (3)
（審・森、大宮）

○…前半10分過ぎ2—2の同点から重機は市川の強烈なロング、大前の速攻、ポストが好調で次々とブラザー陣内に攻め込んで、11—8と3点差のリードを奪って前

半をUターン。
後半も取られては取り返す〝必勝パターン〟の試合運びで、10分過ぎまで15―12と依然として優位をキープしていた。しかし、ようやくこのあたりからプレーのかみ合いがスムーズになって来たブラザーは、速攻、ポストプレー、ミドルと多彩な攻撃を展開、11分から25分までに9ゴールを集中させ、この間渡辺の1ゴールにとどまった重機に逆に21―15と大きく水をあけて試合を引っくり返し、終盤市川のミドルで追撃する重機をふり切った。
勝負どころの後半中ばに竹内の連続ミドルシュートでペースをつかんだブラザーに対し、重機は得意の速攻を仕掛けるものの、要所でミスが出て若さをさらけ出し、目前の勝利をフイにした。

〈男子〉

本田技研24〔9―8 15―9〕17大崎電気
鈴　鹿（2勝2敗）　（1勝1分3敗）

得 0 0 0 3 0 5 1 0 7 0 0 1　17
〔大崎〕部内藤江田野岡追藤崎野本
岡矢斉東武長松越首宮星山　(4)
GK　FP　（審・福田 松尾）　PT
〔本田〕畑尾木松野木上井屋山口本　(2)
々本
大中佐三田立尾玉栗吉田坂
得 0 0 2 0 1 6 2 1 7 3 2 0　24

○…前半、一進一退で本田技研がやや優勢に試合を進め9―8と1点リードで前半を終了。後半に入って大崎は山本、松岡、長野の左腕トリオの活躍でよく攻めたが、5分過ぎから突然崩れ、立て続けにミスが出て本田技研の連続速攻を浴び、5分からの5分間であっという間の6失点。その後、大崎は必死に反撃するが、大切なところでパスミス、2本のPTミスが出て差を詰められず、本田技研の安定した攻めもあってそのまま逃げ切った。これで本田技研は2勝2敗のタイとなり、4位以上が確定して入れ替え戦を免れた。

●後期第6週（11月10日）＝函館市民体育館

〈女子〉

大崎電気29〔18―10 11―14〕24日立栃木
（7勝）　（4勝3敗）

得 0 0 0 0 0 2 2 6 6 2 0 6　24
〔日立〕谷生原山水屋打田田岸沼沢
椿葛栗西清土手前吉山浅井　(4)
GK　FP　（審・斉藤 千野）　PT
〔大崎〕野西日嶋井實渕山谷玉姫尾　(1)
相京
梅大大宮石時徳沖塩季季松
得 0 0 0 5 2 2 3 0 0 6 11 0　29

○…両者とも今季の最終戦。すでに優勝を決めている大崎は、全勝優勝をこの一戦に賭け、日立栃木は今シーズン上向きのカーブを描いて来ただけに、リーグの総決算を女王相手に挑む形。
スタートは日立が良く動き回って、カットイン、また速攻での前田、追っかけからのロングで山岸と得点をあげ、季相玉のパスワークでディフェンスを振ろうとする大崎を良く守って8分には4―3と僅差のリード。ここで大崎は、石井が自陣のフリースローから日立GK葛生の頭上を越える30ｍの超ロングシュートを決めて同点、これでリズムを取り戻して季コンビで逆転し、15分には7―4と逆に3点リード。日立は気がはやるのか、不用な突っ込みからチャージングの判定を食うことが多かったが、その積極性は良い面にも出て、離されずについていった。ところが22分、8―10まで追い上げたところでダブルスカイをミスしてリズムを崩し、大崎の7点連取を食ってしまった。日立はあわてて季相玉にマンツーにいったが、自分の速攻展開も崩れてしまい、大きなエアポケットを作ってしまった。
後半は、むしろ日立の方がいいペースを作り、大崎に退場者が出る間にうまく得点を重ねるなど終始押し気味に展開していただけに前半終盤のエアポケットが悔まれる。

〈男子〉

日新製鋼18〔8―8 10―8〕16本田技研
（2勝1分2敗）　（2勝3敗）鈴　鹿

○…日新製鋼にとっては、かなり大事な試合だった。勝てば3位のAクラス。負けた場合、4点差以内の場合は4位、もし5点差以上をつけられて負けると5位となり入れ替え戦というプレッシャーのかかる一戦。本田は勝ち負けで3位か4位、入れ替え戦の可能性がないだけ精神的に楽と言えた。
そのメンタルな面がスタートでいきなり出る。日新は本田・坂本の連取で0―2とされ、さらに本田・粟屋退場のチャンスにシュートのミスで逆に2失点、一気に0―4とされる劣勢に追い込まれてしまった。だが、ここで本田のパス回し役・田口が負傷する。日新は、西山を中心に田口が復帰するまでに3―4と盛り返してひと息ついた。これで試合は、本田が押し気味ながら1、2点の差で日新がついていく白熱した展開になった。
日新は、前半終了寸前に8―8の同点にしたものの、後半スタートで再びリードを許し10―13、この試合、一度もリードを奪えない日新は、残り8分の時点でも13―15と苦しい戦いだった。だが、ここで使った左腕・吉見が微妙な判定ながらPTを誘い、しかも、そのプレーで本田のコントロールタワー・佐々木が退場になるというチャンスを迎えた。このPTを西山がていねいに決めて14―15の1点差にするや、続けてその西山が追っかけからのロングを叩き込み15―15。ここで今度は逆に日新・徳田が退場になり、5人―5人の攻防になったが、日新・西山は右45度からロングを打ち込んでついに16―15、この試合初のリードを奪った。
だが、本田も田口が右45度を外へ割るフェイントで16―16。徳田が復帰して6人―6人になったのが残り1分50秒。緊迫したムードが流れ、どちらの勝利とも判断しかねたが、残り26秒、日新は右へ右へとずらして吉見がサイドからループシュート、17―16と勝ち越した。あわてて返しの攻撃をしようとする本田陣へ、好判断で飛び出した日新・徳田がパスカット独走して18―16とダメを押した。
試合後、いきなり胴上げを始めた日新。この試合にかかったプレッシャーと勝利の喜びの格別さを裏づけるシーンだった。

＝熊本県総合体育館

〈女子〉

立石電機21〔10―7 11―10〕17ジャスコ
（6勝1敗）　（3勝4敗）

	〔ジャ〕	得	〔立石〕	得
GK	木村	0	井村	0
GK	小深田	0	荒木	0
FP	寺沢	8	是枝	3
FP	石田	1	近藤	4
FP	鷲野	1	亀園	2
FP	伊勢	1	岩村	3
FP	三木	3	薮田	0
FP	宮本	0	江口	1
FP	十丸	0	山口	0
FP	野村	0	山内	2
FP	近藤	3	野島	1
FP	服部	0	ビーバ	5
PT	(2)	17	(2)	21

（審・松尾　福田）

○…気迫の差が実力の差を縮めて接戦を展開。観客は立石の外人・ビスニッチのロングを期待したが、これに応えたのは後半4分。目のさめるようなシュートが左隅に突き刺さった。

後半3点の差を追うジャスコは、18分遂に逆転、観衆をわかせた。その後、再び立石リード。1点差に迫られた27分に初めてGK井村が登場、29分ジャスコの同点シュートをカット、ワンパス速攻につなげ亀園がサイドから決めてジャスコの息の根をとめた。

● 後期最終週（11月17日）
＝大阪中央体育館

〈女子〉

大和銀行20〔7—10／13—8〕18日本ビクター
（4勝3敗）　（3勝4敗）

○…ゲームは前半大和のペースでスタートしたが、20分を過ぎてビクターが逆転、10—7とビクターの3点リードで前半を終了。

後半に入ってもビクターは、長田、武藤の得点でリードを5点とさらに広げた。しかし、大和は5分過ぎから相手のミス、ビクターの志村の退場などのスキをついて速攻、ロング、ポストと多彩な攻撃を展開、13分には14—13と一気に逆転した。ここでビクターも踏んばりロング、PT、サイドと3連続得点で再び16—14とリード。だが地元の声援を受ける大和はなおも粘る。相手の攻撃をしっかりと止めるとじりじりと追い上げ、23分過ぎに17—17と再度追いついた。更に勢いに乗る大和は一気に得点を重ね、残り2分20—17と勝負を決した。ビクターもPTを得て得点したものの時すでに遅く、後半終盤のエアポケットが大きく大事な試合を落とした。

大和は、熱戦を勝ちとると共にリーグ史上最高の3位を確保した。

	〔日ビ〕	得	〔大和〕	得
GK	渡辺	0	高浜	0
GK			松本	0
FP	志村	2	秋成	2
FP	中根	1	高橋	4
FP	門脇	0	川添	2
FP	長田	5	若水	6
FP	武藤	8	馬渡	2
FP	遠藤	0	天谷	1
FP	鈴木	[illegible]	前田	0
FP	下條	2	植田	0
FP	根木	0	上西	3
FP	池田	0	丸田	0
PT	(3)	18	(3)	20

（審・北山　浜野）

〈男子〉

大同特殊鋼14〔10—9／4—5〕14湧永製薬
（4勝1分）　（3勝1分1敗）

○…今リーグも最終戦のこの両雄の対決が栄冠の行方を決することとなった。

	〔湧永〕	得	〔大同〕	得
GK	大城	0	上村	0
GK	井藤	0	秋吉	0
FP	池ノ上	0	田中	0
FP	生駒	5	田口	2
FP	穂積	0	高村	2
FP	藤本	1	柳川	0
FP	志賀	2	大原	0
FP	中川	0	中本	2
FP	内田	0	河井	0
FP	松本	2	蒲生	3
FP	山本	3	市川	4
FP	原田	1	小野	1
PT	(1)	14	(3)	14

（審・島崎　井上）

さすがに両チーム共に気迫がこもり、前半の立ち上がりから激しい攻防を見せた。立ち上がり30秒に湧永・松本が先制するとすかさず大同も市川が決めて開始1分にして1—1。その後も互いに譲らず、一進一退の白熱した戦いとなった。

大同は9—9の同点から、前半終了間際に相手ストーリングの反則から速攻をかけ、エース・蒲生が相手ゴールにとび込んでのファイトあふれるシュートを見せて10—9と1点リードして前半を終了。

後半、先制したのは大同だった。中本が右サイドから決め、続いて蒲生がロングを決めるというベテラン勢の活躍で12—9とこの試合初の3点差がついた。しかし、この後7分過ぎに13点目をあげてから大同の得点はピタリと止まってしまった。

中盤大同・上村、湧永・井藤の両GKがファインプレーの応襲で場内を湧かせたが、じりじりと湧永が追い上げ、残り5分を切ったところで右サイドから山本が左サイド藤本に絶妙のスカイパス、これを藤本が決めて遂に14—13と逆転した。

湧永は勝たなければ優勝出来ず大同は引き分けでも優勝である。残り5分間はこの1点をめぐって両チーム激しい攻防を見せるが、共に大事な1点が取れない。残り30秒を切って絶体絶命かと思われた大同だが、田口が懸命のロングを放ちこれが見事22分ぶりの価千金の同点ゴール。実に劇的な同点引き分けで大同の優勝が決まった。

最終順位

〈一部男子〉
①大同特殊鋼
②湧永製薬
③日新製鋼
④本田技研鈴鹿
⑤大崎電気
⑥三陽商会

〈一部女子〉
①大崎電気
②立石電機
③大和銀行
④日立栃木
⑤日本ビクター
⑥ジャスコ
⑦ブラザー工業
⑧東京重機

〈二部男子〉
①大阪イーグルス
②三　景
③中村荷役
④日鉄建材工業
⑤トヨタ自動車
⑥本田技研熊本
⑦トヨタ車体
⑧大阪ガス

〈二部女子〉
①ムネカタ
②北国銀行

第39回国民体育大会ハンドボール競技成績

成年男子・広島〈湧永製薬〉4年連続
成年女子・熊本〈立石電機〉2年連続
少年男子・福岡〈久留米工大附〉2年連続
少年女子・石川〈小松市立女〉3年ぶり

第39回国民体育大会ハンドボール競技は、10月13日から17日まで奈良県生駒市で開催された。

成年男子は、今年も相かわらず広島（湧永製薬）と愛知（大同特殊鋼）の決勝となった。試合は、前半愛知が好調にリードを奪ったが、後半に入ると愛知に退場者が続出、全く得点をあげられない間に一気に広島が逆転した。その後シーソーゲームを展開したが、広島が逃げ切り、4年連続して優勝を飾った。

全県参加となった成年女子は、予想通り埼玉（大崎電気）と熊本（立石電機）の決戦。前月、日本リーグで苦杯を喫している熊本が気迫のこもったプレーで快勝、雪辱を果たして2年連続の栄冠に輝いた。

少年男子は、インターハイ優勝の浦和実を中心とした埼玉選抜とインターハイでその浦和実に惜敗した久留米工大附属（福岡）の対戦となり、久留米工大附属が見事雪辱、2年連続優勝を果たした。

少年女子は、やはりインターハイ優勝の熊本市立を中心とした熊本選抜と小松市立女子（石川）との対戦。これも単独チームの石川が延長の大熱戦を逆転で勝ち、3年ぶりの栄冠に輝いた。

成年男子

▼1回戦

滋　賀 27〔12－9 10－13 1－1 4－1〕24 福　岡
（滋賀ク）　（北九州ク）

○…前半両チーム共にミスが多く、10分過ぎまで一進一退であったが、その後滋賀がミスをものにし、12－9で前半を終了。後半に入り、福岡が速攻、ポストプレーを決め、20分過ぎに1点差、終了20秒前に同点に追ついた。延長に入り滋賀・武田のサイドシュートが連続して決まり、結局27－24で滋賀が勝った。（清水）

岩　手 26〔14－10 12－14〕24 愛　媛
（花巻ク）　（愛媛選抜）

○…立ち上がり愛媛が3点連取、その後岩手が7点連取とお互いに点の取り合いをしたが、両チーム共にパスミス、シュートミスが目立った。後半に入ると岩手の方はコンビプレーが良く取れ、ディフェンスも良くなった。

それに対して愛媛は空白の時間が8分間も続きもう少し考えて大事にプレーに専念すべきであった。（島崎）

富　山 25〔16－8 9－12〕20 東　京
（全富山）　（三陽商会）

○…前半立ち上がりより富山が攻守共に東京を圧倒し、16－8で前半を終了。後半に入り東京も必死で反撃を試みるが、前半の失点が大き過ぎ、結局5点差まで追い上げるのが精一杯だった。（秋永）

▼2回戦

広　島 34〔20－8 14－5〕13 滋　賀
（湧永製薬）

○…前半開始早々、滋賀が伊藤のミドルで先制、しかし広島もすぐにペナルティーで同点にし、その後は山本のカットイン、藤本の速攻でペースをつかむ。後半も滋賀は伊藤、能波のロングで応戦するが、若手にメンバーを切り替えた広島が固い守りに支えられ走り回った。（杉山）

大　阪 47〔28－9 19－8〕17 北海道
（大阪イーグルス）　（函館有斗ク）

○…大阪は速攻からの多彩な攻撃で着実に点差を広げた。北海道は木村のロングを軸によく頑張ったが、攻撃が単調なために攻め切れなかった。（奥田）

奈　良 38〔18－6 20－7〕13 岩　手
（わかくさク）

○…前半、奈良は速い動きで攻め、7本のペナルティーを含めて20点を取る。一方岩手も中嶋が4本のシュートを決めるなど頑張り7点をあげる。後半も奈良はGKの好守と速攻が決まり38－13で快勝した。（丸谷）

愛　知 34〔17－7 17－7〕14 富　山
（大同特殊鋼）

○…愛知は長身を利して田口、高村、蒲生のロングシュートを中心にしてゲームを展開する。一方富山は速いパス、速い動きで愛知の高いディフェンスを崩そうとするが、相手の速い動きに押え込まれ崩すことが出来ず、不利な体勢からのシュートが目立った。両チームのGKの好守により点差のわりには引き締まった試合だった。（中本）

▼準決勝

広　島 37〔19－9 18－8〕17 大　阪

得	〔大阪〕		〔広島〕	得
0	広川	GK	大城	0
0	本田	GK	井藤	0
1	高橋	FP	池ノ上	8
1	源野	FP	生駒	5
0	足羽	FP	穂積	5
1	大西	FP	藤本	2
1	岩本	FP	志賀	4
0	河原崎	FP	中川	3
0	勝本	FP	楢原	4
0	三谷	FP	松本	2
11	辻本	FP	山本	4
2	杉尾	FP	原田	0
17	(4)	PT	(9)	37

（審・中根、秋山）

○…前・後半を通じて広島の池ノ上、生駒のロングシュート及び速攻がよく決まり、大阪に大差をつけて勝利を握る。両チーム共にファウルが多く、荒い試合展開となり面白さを欠いた。（清水）

愛　知 24〔11－14 13－3〕17 奈　良

○…奈良は、愛知の厚い壁を突破出来ず、数少ないチャンスを

〔奈良〕

	選手	得
GK	佐伯	0
	小野	0
FP	佐川	0
	阪本	0
	福西	0
	小林	4
	玉村	7
	金丸	5
	村田	0
	菅沼	1
	谷	0
	田中	0
PT		(4) 17

（審 清水・秋永）

〔愛知〕

	選手	得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	0
	田口	7
	高村	4
	柳川	0
	大原	0
	中本	4
	河井	0
	蒲生	5
	佐藤	0
	市川	4
PT		(0) 24

キャチミスで逃がし、ペナルティースローもGKの好守に阻まれてはどうするすべもなく前半13—3の大差で終了した。後半に入り奈良が3連続得点し盛り上げたが、中盤やや疲れが出た。残り10分から大同の連続退場を機に盛り上がったが力及ばなかった。（北山）

▼3位決定戦

奈良 32（15—7、17—15）22 大阪

〔大阪〕

	選手	得
GK	広川	0
	本田	0
FP	高橋	3
	源野	6
	足羽	0
	大西	5
	岩本	1
	河原崎	0
	勝本	0
	三谷	1
	辻本	6
	杉尾	0
PT		(0) 22

（審 秋永・清水）

〔奈良〕

	選手	得
GK	佐伯	0
	小野	0
FP	佐川	1
	阪本	0
	福西	0
	小林	1
	玉村	7
	金丸	10
	村田	0
	菅沼	7
	谷	2
	田中	4
PT		(3) 32

○…立ち上がり両チーム五分の闘いを演じていたが、15分過ぎより奈良・玉村、金丸、菅沼の速攻、ミドルと多彩な攻撃で攻め、対する大阪はパワーヒッター辻本を中心に攻守共に粘るが、前半は15—7で奈良が取る。後半開始早々に奈良のダブルスカイでムードを盛り上げ、大阪もカットイン、サイドと攻めるも、奈良が好ディフェンス、GKの好守で前半のリズムのまま押し切った。（西園）

▼決勝

広島 18（9—13、9—4）17 愛知

○…前半、愛知は蒲生の故障退場等があったが、好ディフェンスでチーム全体がよくまとまり広島を上回った。後半は開始早々から愛知に退場、失格が続出し、9分過ぎには遂に広島が逆転、その後一進一退を続けたが、終了2分前に広島が決勝点をあげて逃げ切った。結局、愛知は蒲生の故障退場が痛く1点に涙を飲む。（浜野）

〔愛知〕

	選手	得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	1
	田口	7
	高村	2
	柳川	0
	大原	0
	中本	5
	河井	0
	蒲生	0
	佐藤	0
	市川	2
PT		0 17

（審 島崎・井上）

〔広島〕

	選手	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	6
	生駒	3
	穂積	1
	藤本	2
	志賀	1
	中川	0
	楢原	0
	松本	1
	山本	4
	原田	0
PT		(4) 18

◇成年女子

▼1回戦

奈良（わかくさク）30（10—4、20—2）6 山形（米沢女子OG会）

○…前半、両チームとも、少々固さが目立ったが、奈良の速攻が決まり始め、10—4で前半を終了した。

後半も、調子を上げた奈良の一方的な試合となった。（小林）

静岡（ポストク）19（8—7、11—9）16 神奈川（全神奈川）

○…両チーム攻守共に互角で、一進一退をくり返した。静岡GKの好守で静岡1点リードで前半終了。

後半、静岡はセットプレーから植田のミドルシュートで着々と加点してリードを奪った。

神奈川も速攻で頑張ったが力及ばなかった。（浜野）

佐賀（神埼ク）26（10—11、16—4）15 長野（TDK）

○…佐賀の速い攻撃に対し長野は古沢、佐藤を軸にセットで応戦、互角のゲームとなったが、後半に入り佐賀はGKの好守と速攻で大差をつけ長野を突き離した。佐賀の走り勝ち。（春原）

長崎（長崎ク）24（13—2、11—6）8 香川（香川選抜）

○…両チーム共立ち上がり固くなりミスが目立っていたが、長崎が相手のミスをついて速攻で得点を重ね11点差で前半終了。後半に入って長崎の動きにリズムが出て来る。一方香川は無理な体勢からのシュートが目立った。（中本）

京都（京都ク）19（7—4、12—4）8 富山（全富山）

○…全国教職員大会優勝チームを中心とした京都に対し選抜チームを組んだ富山の戦いだ。前半すべり出し両チーム動きが固くうまくボールが回らなかったが、3分半に京都が山戸のジャンプで先制。続いて5分、6分と矢野がペナルティーで確実に決め、京都がペースをつかんだ。対する富山は水上のPTで反撃、20分には5—4まで詰め寄ったが、ここで京都が突き離しに成功、7—4で前半終了。後半に入りペースを取り戻した京都が富山の反撃を押さえて逃げ切った。（吉田）

岐阜（腕満会）13（7—8、6—2）10 宮城（聖和ク）

○…速攻の岐阜と加賀谷を中心にミドル、カットイン、サイドと多彩なプレーの宮城との見応えのある試合であった。前半両チームの持ち味を十分に出し、一進一退の好ゲーム。8—7で宮城1点リードで終了。後半宮城がPTなど失敗している間に岐阜が逆転、そのまま岐阜ペースで終わる。岐阜GKの好守もさることながら、PT4本の失敗など宮城の後半のシュートミスが勝敗の分れ目となった。（渡辺）

鹿児島（ソニー国分）16（6—6、10—3）9 島根（松江ク）

○…前半、島根・福田のカットインで幸先よくスタートを切ったが、鹿児島も保志の速攻で徐々に追いつき6—6同点で終了。後半も一進一退の攻防をくり返したが、13分鹿児島・久木田のミドルが決まり主導権を握る。その後島根GK森広の堅守も及ばず、16—9で鹿児島が競り勝った。（杉山）

宮崎（全宮崎）11（7—6、4—4）10 新潟（新潟江南高校OG）

○…前半、両チーム共シュートチャンスはあるがなかなか得点成らず、4分過ぎから宮崎・松本のシュートが決まり出し着々と得点を重ねる。しかし、新潟も20分過ぎからシュートが得点に結びつき前半7—6で終了。後半15分頃まで両チーム共同じシュートミスのくり返しが続き、20分過ぎから1点差のまま宮崎が守り切った。（西村）

東京（東京重機）25（14—4、11—3）7 滋賀（滋賀ク）

○…先取点は滋賀があげたが、実力、体力、スピードに勝る東京が順当に勝った。（杉本）

鳥取（アシックス）32（16—2、16—4）6 高知（高知ク）

○…スピードとパワーに勝る鳥取は、シュートカット、パスカットを速攻に結びつけ着々と加点し16—2で前半終了。後半になって高知は動きの悪くなった島取ディフェンスをゆさぶるも、ノーマークシュート、ペナルティースローを決められず、点差が増々広がり

32—6で終わる。最後まで真剣なプレーをした高知の試合態度は非常に気持が良かった。（吉田）

山梨15〔7—7／8—6〕13沖縄
（シャトレーゼク）（首里高OG）

○…前半両チーム共動きが固く、沖縄は中宗根、一方の山梨は金井のロングシュートで点を取り合った。後半に入り沖縄の荒いディフェンスに助けられた山梨はペナルティを得て着々と加点、一方沖縄は山梨のパスミスを速攻で得点するもあと一歩及ばなかった。沖縄はGKの好守が光った。（西村）

山口16〔5—6／11—6〕12群馬
（徳山ク）（光電ク）

○…両チーム共にセット型の攻撃のチームで、群馬が先取点を取り波に乗るかと思われたが、一進一退で前半6—5と群馬の1点リードで終わる。後半8分より山口が4連続得点を重ね試合を決めた。（大原）

福岡25〔12—6／13—8〕14福井
（FCC）（全福井）

○…前半、福岡がセット攻撃で3点連取し好スタートを切るが、福井もロング、ポスト攻撃で対応、中盤追い込むも後半ミスより福岡が速攻にて加点、そのままのペースで6点差にて終了。後半に入り福井ディフェンスの甘さ、攻撃の単調なところを福岡はセット、速攻と多彩に攻撃し一方的な試合となる。福井も時おり加点するも及ばず、福岡が攻守にわたり力で上回った。（秋山）

愛媛16〔6—7／10—4〕11和歌山
（愛媛選抜）（御坊ク）

○…立ち上がり愛媛はミドル、速攻で2点を連取、負けじと和歌山もロング、速攻と2点を返し前半は一進一退の好ゲームとなったが、後半、愛媛は和歌山の粘りあるディフェンスに対しじりじりと点差を開き、勝利を手中にした。（西園）

秋田27〔9—10／18—9〕19大分
（大曲スポーツ）（大分東シニアク）

○…開始早々大分・斉藤が中央からのカットインで先取点をあげ、その後も速攻、ロングなどで着々と加点するも、秋田もPTの失敗があったものの速攻で得点を重ね追い上げたが、シュートミスが目立ち10—9と大分がリードして前半を終了。後半に入って秋田は、サイド、速攻でリードすると共に照井の連続カットから得点を重ねペースをつかみ、その後も照井の活躍によって点差を広げ勝利をあげた。（中根）

▼**2回戦**

熊本33〔20—5／13—4〕9静岡
（立石電機）

○…攻守共に勝る熊本が途切れなく得点を重ねる。一方静岡はセットオフェンス型のチームで果敢にステップ、ロングシュートでアタックするが、立石チームの固い守りに阻まれる。実力の差は歴然としていたが、最後まで全力を出し尽した静岡の健闘を讃えたい。（国府）

広島24〔14—6／10—5〕11徳島
（広島ク）（池田ク）

○…前半、立ち上がり10分間互いに譲らず接戦であったが、次第に広島のディフェンスが良くなり相手ミスより速攻につなぎ着々加点。一方徳島もよく頑張ったが、単発での加点に過ぎず広島の8点リードで前半終了。後半、始め徳島元気を取り戻しリズムに乗るかと思われたが、GKの活躍と多彩な広島の攻撃に徳島ついていけず広島のワンサイドゲームとなる。攻守に広島の技術、パワーが勝った試合であったが、徳島も最後まで試合を捨てることなく好感が持たれた。（秋山）

奈良26〔14—2／12—2〕4北海道
（室蘭ク）

○…前半立ち上がり北海道がサイドからの回り込みシュートで先制し、3分にも加点、接戦になるかと思われたが前半10分を過ぎる頃から奈良に速攻が出始め、PT、サイドシュートなどで加点し、決め手をかく北海道を一気に突き離した。後半に入ってもメンバーを替える余裕を見せて26—4と奈良が一方的に押し切った。（西沢）

佐賀15〔3—4／12—9〕13千葉
（千葉ク）

○…開始1分、佐賀はPTで先取点をあげ、9分ポスト、16分速攻で得点する。一方、千葉は2分、3分ポストから連続得点を重ねリードを奪ったものの7分から15分間無得点、両チーム共再三にわたりPTシュートミスがあり、前半が終って4—3で千葉がリード。後半に入って両チームよく走り点の取り合いとなったが、終始リードの千葉が23分ミスがあり、佐賀に速攻で点を取られ敗れた。（中根）

茨城33〔19—5／14—4〕9長崎
（日本ビクター）

○…日本リーグチームとクラブチーム、その練習量の違いからゲームらしさが失われつつあるゲームであったが、そのことを差し引けば長崎は大変善戦したと思われる。（浜野）

京都26〔10—8／16—4〕12岡山
（全岡山）

○…前半試合開始早々、京都・山戸のシュートで始まるが、15分頃まで両チーム互角の闘いであり、ペナルティー2本をミスした岡山が前半の得点にひびいた。後半、10分までセット、速攻で着々と加点した京都がそのまま点差を広げて押し切った。（西村）

兵庫24〔12—2／12—11〕13岐阜
（兵庫選抜）

○…前半、兵庫は早いパスワークからサイドにボールを集め、坂

本の連続ゲットで先制。その後も岐阜の甘い攻めを速攻に結びつけ沢村などの好シュートで前半12—2の大差で終った。後半になって兵庫は3連続ゲットしたが中盤中だるみし、岐阜は追い上げたが及ばなかった。（北山）

栃木 45（23—4, 22—3）7 **鹿児島**
（口立栃木）

○…立ち上がり栃木はミスからPTで得点するも鹿児島もすかさずカットインで1—1とする。しかし、5分過ぎからは栃木の厚いディフェンスを破れず苦しむ。栃木は、鹿児島のミスに乗じ前田、山岸のロングシュート、速攻、ポストプレーなどで着々と加点、大差で前半を終了。後半に入り鹿児島の反撃成るかと思われたが、またもや厚くて固いディフェンスを破れず、パスミス、シュートミスで速攻を受け、一方的な試合となった。（西村）

三重 39（22—3, 17—2）5 **宮崎**
（ジャスコ）

○…開始早々三重・伊勢の速攻に始まり8分までに7点を取るなど持ち味のスピードを生かしたゲーム展開であった。一方、宮崎もミドル、ポストと地道に点を取るもののワンサイドゲームとなり、三重が、一方的に勝利を収めた。（西園）

東京 17（6—4, 11—3）7 **岩手**
（岩手桐花ク）

○…岩手は東京の固いディフェンスを攻めあぐみ、一方東京も時おり放つシュートを岩手GKの好守に阻まれ、両チーム共12分まで無得点。12分にようやく東京が先制すると岩手もすぐに返し、一進一退の前半であった。後半に入り東京は速攻を決め大差をつけた。（春原）

福島 14（6—10, 8—3）13 **鳥取**
（ムネカタ）

○…両チーム共スピード豊かなプレーが続き、神並を中心に確実に得点を重ねた鳥取が4点リードで前半終了。後半鳥取は勝ちを意識したのかリズムが崩れ、福島ペースの試合運びとなり、10分には同点になりそのまま福島が逆転し逃げ切った。両チーム気迫のある好ゲームであった。（大原）

大阪 23（15—6, 8—6）12 **山梨**
（大和銀行）

○…大阪の速攻、ポストプレーが次ぎ次ぎと決まり15—6と一方的リードで前半を終了。後半に入っても大阪のペースでじりじりと加点、山梨も頑張るが前半のリードがそのまま得点差となった。（小林）

愛知 30（15—3, 15—6）9 **山口**
（ブラザー工業）

○…山口が積極的に攻撃をしかけるが、愛知の固いディフェンスをなかなか破れなかった。愛知はパスカット、シュートカットから次々と速攻をくり出し大差をつけた。愛知のGKの巧守も光った。（河戸）

福岡 34（18—10, 16—5）15 **青森**
（全青森）

○…前、後半を通じて青森のディフェンスの乱れが目立ち、一方福岡はよく動き、シュートが勝り速攻などで加点、特に後半、福岡のGKがよく守り勝った。（井上）

石川 23（13—3, 10—3）6 **愛媛**
（北国銀行）

○…石川はゲーム開始早々河原の連続3得点で優位に立ち、足を生かし速攻で得点を重ね大量のリードで楽勝した。愛媛は田中の活躍が目立ち、最後までよく健闘した。（中井）

埼玉 31（17—3, 14—7）10 **秋田**
（大崎電気）

○…前半10分までは秋田の善戦で埼玉もシュートをあせって打っていたが、だんだん動きも良くなり、GKからの速いボール出しで逆速攻をかけ得点を重ね、攻守走共に格が違う実力で一方的な試合だった。敗れはしたが秋田も精一杯健闘した。（島崎）

▼3回戦

熊本 33（15—3, 18—0）3 **広島**

○…立ち上がり2分、広島・田中の速攻で先取点を奪い盛り上がったが、その後は熊本の高くて固いディフェンスを突破することが出来ず、単発的なシュート、パスカットからの速攻で熊本に着実に得点を重ねられ、前半は15—3で終わる。後半は広島は足が止まってしまい一方的なゲーム展開になってしまうが、広島は日本リーグ勢を相手によく健闘した。（国府）

奈良 13（4—7, 9—4）11 **佐賀**

○…地元奈良は小学生の応援を受けはつらつとしたプレーが期待されたが、固さが見られ今一つリズムに乗れず、一方佐賀は羽立、樋口を中心に常に自分たちのペースで試合を展開、7—4で前半をリード。後半に入っても今一つ奈良はリズムに乗れなかったが、佐賀の体力的な衰えがあり少しずつ加点、10分過ぎにようやくリードGKの好守もあり勝利を収める。（辻）

茨城 22（9—6, 13—6）12 **京都**

○…前半開始両チーム共ボールが手につかず、5分過ぎからの茨城・武藤、下條、京都・秋田、矢野のロングの応襲で見応えのある試合となる。後半に入り京都のミスを巧く茨城が速攻でつなぎ着々と加点し京都を突き離したが、京都の善戦は立派であった。（西村）

栃木 30（13—3, 17—2）5 **兵庫**

○…開始早々、栃木・前田の小気味良いシュートが決まり、続い

て土屋が速攻を決める。しかし、兵庫も大崎の巧いパスが通り1点を返す。前半中頃両チーム共無得点状態が6分間ほどあったが、速攻、カットインなどで13－3と栃木リードで前半を終える。後半も栃木のスピードある攻撃に兵庫がついていけず栃木の快勝に終わった。（西園）

三　重23〔14－5・9－8〕13東　京

○…両チーム共よくボールを回しよく走り攻防をしたが、三重はシュートの確実性が得点を得た。東京は市川のシュートに確実性がなく、その差が前半の得点差となった。後半は東京のディフェンスも良くなり、三重も攻撃のリズムが狂ったか前半のようにシュートも決らず、東京のリズムで展開。総合力で三重の勝利であったが、東京の走るプレーに好感が持てた。（島崎）

大　阪16〔9－5・7－7〕12福　島

○…大阪の高いディフェンスとGKの好守に合い福島はシュートミスが多く、また、大阪のスピードあるコンビネーションプレーにより福島は反則を誘われた。後半に入り、福島も速い動きから攻勢に出たが、大阪の巧い得点に同点とすることが出来なかった。両チーム共スピードあふれる攻守が光った。（杉本）

愛　知21〔8－9・13－8〕17福　岡

○…開始早々、福岡・坂本のシュートで先制、しかし、愛知も竹内のロングで得点する。福岡、愛知共ロング、ポスト、カットインと得点を重ねシーソーゲームを展開し、前半9－8で福岡がリード、後半に入っても両チーム共よく走り、19分まで互角の戦い。しかし、福岡・額田の退場を境に愛知が5連続得点をあげ、試合を決定づけた。それにしても、福岡の大健闘が目立ったゲームだった。（秋永）

埼　玉19〔9－7・10－5〕12石　川

○…前半15分まで石川の動きが良く埼玉も攻めあぐむが、次第に埼玉がリズムをつかみ2点差をつける。後半に入り石川は中川のシュートで追い上げようとするが、埼玉が石井の活躍などで点差を広げ19－12で勝つ。（丸谷）

▼4回戦

熊　本37〔23－7・14－3〕10奈　良

○…試合開始直後鮮やかなスカイプレーで先制した熊本は、その後もロング、ポスト、速攻と多彩な攻撃で着々と加点し、前半終了時には23－7と勝利を決定づけた。一方奈良は、熊本の固い守りを攻めあぐんだが、藤原、岩田のミドルシュートやGKの好守など試合を盛り上げた健闘は見るべきものがあった。（西沢）

茨　城20〔7－10・13－7〕17栃　木

○…手の中の探り合いの様子でゲームはスタートする。7分過ぎから栃木のロングからのポスト、ポストからロングという縦の攻撃が茨城のディフェンスの乱れを生み得点、茨城も武藤のロングを中心に反撃するが、栃木GKの好守があり10－7と栃木リードで前半終了。後半6分の間茨城・武藤の活躍で連続得点し同点に追いつく。その後栃木・山岸の得点で一進一退の展開となる。25分に茨城はPTを決め、その後リズムに乗り得点を重ね栃木を突き離した。（堀田）

大　阪28〔18－10・10－8〕18三　重

○…前半、両チーム共スピーディなパスワークと良いディフェンスがあり一進一退の展開であったが、大阪の動きが一段と良く、攻撃方法もいろんな角度からのシュートで得点を重ねる。一方三重は攻撃の幅が小さく、またパスミスから速攻を許した。後半、三重は積極的にシュートを打ち出し反撃をするが及ばず、大阪の気力と動きが一段と良かった。（井上）

埼　玉19〔12－8・7－6〕14愛　知

○…20分過ぎまで両チーム共GKの活躍で得点の取り合いで8－8。埼玉は23分過ぎより愛知のシュートを速攻に結びつけ連続4得点で12－8と前半リード。後半になると愛知は動きが良くなり連続3得点し、11－12と1点差まで追い上げるも埼玉も頑張り、10分過ぎよりペースをつかみ、速攻、ポストで得点し19－14で終了。ノーマークシュート、ペナルティースローを何本も止めた愛知の両GKは試合を非常に盛り上げた。（吉田）

▼準決勝

熊　本26〔12－10・14－7〕17茨　城

得	〔茨城〕			〔熊本〕	得
0	渡辺	GK	GK	井村	0
				荒木	0
4	志村	FP	FP	是枝	0
0	中根			近藤	5
0	門脇			亀園	3
4	長田			岩村	1
0	遠藤			藪田	0
4	武藤			江口	2
4	下條			山口	0
1	池田			山内	6
0	鈴木			野嶋	9
0	宮川			長谷川	0
17	(4)	PT	PT	(5)	26

〔審　西沢・国府〕

○…両チーム一進一退のゲーム展開から前半19分、熊本・遠藤の失格（3回目退場）でリズムが狂うかに見えたが、鈴木の活躍で12－10と熊本リードで前半終了。後半、熊本は着々と加点するが、一方茨城は後半開始の10分間の功防で熊本に突き離された。（堀田）

埼　玉27〔10－8・17－12〕20大　阪

○…大阪は立ち上がり速攻とサイド攻撃で連続得点しペースに乗るかに見えたが、埼玉は粘り強い

	〔大阪〕	得		〔埼玉〕	得
GK	高浜	0	GK	梅野	0
	松本	0		藤田	0
FP	秋成	3	FP	松尾	3
	高橋	5		大日	0
	川添	2		宮嶋	4
	若水	2		石井	2
	馬渡	7		時實	6
	天谷	1		徳渕	6
	前田	0		沖山	6
	上西	0		深沢	0
	丸田	0		西村	0
	植田	0		米山	0
		20			27
PT	(1)		PT	(6)	

（審・中井 河戸）

埼玉は大阪の秋成、馬渡が退場する間に点差を広げた。

大阪は速攻でよく粘ったが、ディフェンスが乱れ、最後までペースに乗り切れなかったのが悔やまれる。（奥田）

▼3位決定戦

大　阪22｛11—10、11—10｝20茨　城

	〔茨城〕	得		〔大阪〕	得
GK	渡辺	0	GK	高浜	0
FP	志村	5		松本	0
	中根	2	FP	秋成	7
	門脇	0		高橋	0
	長田	5		川添	1
	遠藤	0		若水	3
	武藤	4		馬渡	3
	下條	4		天谷	1
	池田	0		前田	0
	鈴木	0		上西	6
	宮川	0		丸田	0
				植田	1
		20			22
PT	(3)		PT	(7)	

（審・丸谷 奥田）

○…立ち上がり大阪が3点連取するが茨城もすぐに追いつく。その後先行する大阪を茨城が追いすがる形で前半を終了。後半に入っても一進一退の攻防が続き、勝負の行方は最後までわからない展開となる。結局、ゲーム終了間際に大阪がペナルティーを得、これが決勝点となり大阪が勝利をものにした。

両チーム共ファイトあふれる好ゲームであった。（河戸）

▼決勝

熊　本21｛9—6、12—9｝15埼　玉

○…熊本・近藤の速攻、埼玉・沖山のロングでスタート、その後両チーム共固い守りで互いに得点出来なかったが、沖山の2点目のロングから一進一退の攻防が展開され、終盤熊本の野嶋のロングが決まり、9—6で熊本リード。

後半、埼玉の2連続得点で1点差まで追い上げたが、攻撃力に勝る熊本は次第に点差を広げ優勝した。（中井）

	〔埼玉〕	得		〔熊本〕	得
GK	梅野	0	GK	井村	0
	藤田	0		荒木	0
FP	松尾	1	FP	是枝	1
	大日	0		近藤	4
	宮嶋	1		亀園	1
	石井	6		岩村	2
	時實	2		藪田	5
	徳渕	1		江口	2
	沖山	3		山口	0
	深沢	0		山内	0
	西村	0		野嶋	6
	米山	1		長谷川	0
		15			21
PT	(2)		PT	(2)	

（審・島崎 井上）

◇少年男子

▼1回戦

愛　媛（えひめ）30｛9—11、12—10、3—1、2—4、2—2、2—2　PTC 3—2｝30愛　知（愛知選抜）

○…愛知はゲーム開始より速攻をまじえて7—1と大差をつけ試合を優位に展開したが、愛媛は長身の長嶺のロングからペースをつかみ追い上げ2点差で前半を終了した。後半立ち上がり愛媛は2点連続得点で同点としてからは両チーム互角の戦い。

第1、第2延長後、3—3のPTCも1—1で分け、ようやくサドンデスの3人目で愛媛の勝利となる。（中井）

山　口（山口高校選抜）39｛19—7、20—12｝19宮　城（古川工高）

○…シュート力、走力において山口が数段上回り一方的な展開となった。特に山口・坂口のロングシュートは破壊力があった。宮城はシュートミスが目立ち、立ち上がりから大差をつけられ、気力も欠けていたように見えた。山口はミスを最小限に押さえ失点を少なくすることが課題。（河戸）

大　阪（大阪高校選抜）27｛13—10、14—10｝20沖　縄（沖縄県選抜）

○…前半開始直後大阪・北村の中央からのポストシュートで得点し、さらに速攻などで加点する。沖縄緊張気味にてパスミスがあり、せっかくのチャンスをつぶすが徐々にコンビがとれ、スカイプレーも決まり追い上げて行く。後半に入り3点リードの大阪GKがよく防御し、沖縄のディフェンスの甘さからポストプレーを随所に活用する。大阪も時々防御に大きな穴が空き得点を許す。（井上）

▼2回戦

福　岡（久留米工大附高）29｛13—8、16—6｝14愛　媛

○…開始早々より両チーム共それぞれの持ち味を出しきびきびと動き好試合を展開。愛媛は長嶺のロングを中心に得点するが、地力に勝る福岡は甲斐、石丸らが、ロング、速攻と着実に加点し、前半は13—8で終了。後半に入り愛媛もよく反撃し、10分間はしまったゲーム内容になった。しかし、10分以後足が止まり20分まで無得点。その間に福岡は一気に9得点し、試合を決定づけた。（秋永）

奈　良（奈良選抜）21｛10—8、11—9｝17北海道（北海道選抜）

○…緊張気味でスタートした地元奈良は、2分森本の速攻で得点し、波に乗るかに見えたが、ミスが多く得点を重ねることが出来ない。一方、北海道も再々のシュートチャンスを奈良GKの好守に合い得点が取れない。2点差で奈良がリードで前半終了。後半、北海道に退場者が出たスキに奈良・福西、中盛の得点で突き離した。北

海道は14分から22分の間攻撃のきっかけをつかめず2点止まりが響いた。（堀田）

山口　25 ｛10—10 / 15—9｝ 19　石川（全石川）

○…石川、立ち上がり2点連取してペースに乗り、のびのびとしたプレーで着々加点する。これに対し山口は気負いが見られる。パスミスが多く得点の速攻が見られない。個人技で点を取り同点で折り返す。後半固さの取れた山口は速攻が決まり出し、7点連取して試合を決めた。両チームのGKの好守で試合が引き締った。（渡辺）

埼玉（埼玉選抜）　25 ｛14—12 / 11—11｝ 23　大阪

○…IH優勝の浦和実を中心とした埼玉と全国大会であと一歩で優勝を逃している此花学院を中心とした大阪との対決。大阪が浜野のペナルティーで先制。対して埼玉は猪瀬、高橋で逆転。主導権を奪った。その後一進一退の攻防で前半を14—12と埼玉リードで折り返した。後半になりマークがきつかった大阪のエース君島、埼玉のエース新井が活躍、結局、前半のリードを守った埼玉が逃げ切った。（吉田）

▼準決勝

福岡　27 ｛14—9 / 13—11｝ 20　奈良

○…速攻力、セットオフェンス、ディフェンスなど総合力の違いを見せつけられた感じのゲームである。しかし、奈良の福西、鈴木などのファイトあふれるプレーは大変好感の持てるもので、ゲームを盛り上げた。（浜野）

	〔奈良〕	得	〔福岡〕	得
GK	田澤	0	井上	0
GK	石原	0	坂本	0
FP	森本	1	田中	4
FP	橋本	7	甲斐	8
FP	福西	6	松尾	0
FP	乾	0	小池	2
FP	湊	1	村田	4
FP	鈴木	2	石丸	1
FP	阪本	1	大坪	1
FP	中盛	0	誉田	1
FP	吉迫	2	大中	2
FP	岩本	0	竹内	4
PT	(1)	20	(0)	27

（審・中根、秋山）

埼玉　32 ｛9—13 / 15—11 / 3—0 / 5—2｝ 26　山口

	〔山口〕	得	〔埼玉〕	得
GK	中光	0	石井	0
GK	下宮	0	小林	0
FP	坂口	0	滝沢	6
FP	千葉	12	高橋	0
FP	藤本	3	猪瀬	2
FP	白石	0	新井	10
FP	白坂	3	清田	2
FP	久本	0	高橋	8
FP	長浦	0	増田	2
FP	松本	0	福本	1
FP	松永	0	佐藤	1
FP	平野	8	大窟	0
PT	(5)	26	(2)	32

（審・北山、浜野）

○…開始早々山口がPTで先取点をあげたものの両チーム共固さが抜けず動きが悪い。しかし、10分過ぎた頃から動きも良くなりお互いに得点をあげたが、シュートを確実に決め山口が13—9で前半をリード。後半に入ってお互いに点の取り合いとなったが、18分埼玉が同点に追いつき一進一退のゲーム展開で延長に入る。延長開始、埼玉・新井がたて続けにロングを決め勝負を決定づけた。（中根）

▼3位決定戦

山口　30 ｛15—10 / 15—10｝ 20　奈良

	〔奈良〕	得	〔山口〕	得
GK	田澤	0	中光	0
GK	石原	0	下宮	0
FP	森本	2	坂口	0
FP	橋本	4	平野	7
FP	福西	6	千葉	4
FP	乾	0	藤本	7
FP	湊	1	白石	1
FP	鈴木	5	白坂	8
FP	阪本	0	久本	1
FP	中盛	1	長浦	0
FP	吉迫	1	松本	2
FP	岩本	0	松永	0
PT	(4)	20	(0)	30

（審・大原、西園）

○…前半、山口の平野、千葉、奈良の福西、鈴木のロングシュートの打ち合いとなったが、力強さの点で山口がリードして終了。後半に入っても、山口・白坂の頑張りから着々と加点し試合が決まってしまった。奈良はシュートミス、パスミスが目立った。（清水）

▼決勝

福岡　23 ｛12—11 / 11—9｝ 20　埼玉

	〔埼玉〕	得	〔福岡〕	得
GK	石井	0	井上	0
GK	小林	0	坂本	0
FP	滝沢	2	田中	3
FP	高橋	0	甲斐	10
FP	猪瀬	2	松尾	0
FP	新井	7	小池	2
FP	清田	1	村田	1
FP	高橋	4	石丸	1
FP	増田	4	大坪	4
FP	福本	0	誉田	0
FP	佐藤	0	大中	0
FP	大窟	0	竹内	2
PT	(3)	20	(2)	23

（審・浜野、北山）

○…ゲーム開始早々より両チーム互いに激しく点を取り合いシーソーゲームを展開。結局前半を12—11で福岡がリードで終了。後半に入り福岡が4分間3連続得点をあげ主導権を握るかに見えたが、その後の13分間で1ゴールだけ。逆に埼玉が4得点をあげ再び1点差とする。しかし、その直後より福岡のエース甲斐がロングシュートをたて続けに決め追撃する埼玉を振り切った。（秋永）

◇少年女子

▼1回戦

大阪（大阪高校選抜）　11 ｛5—1 / 6—4｝ 5　宮城（聖和学園吉田高校）

○…開幕戦のためか、両チーム共固さが見られミスの多いゲームとなった。大阪は、相手のミスをよく速攻に結びつけ緒戦をものにした。宮城は、実力を出し切れぬまま敗れた感がある。（奥田）

愛知（愛知選抜）　20 ｛12—6 / 8—6｝ 12　埼玉（埼玉選抜）

○…前半、坂倉を中心に速い攻撃で愛知がリードを奪い12—6で終了。後半に入って埼玉の池永、田村のシュートが決まり出し、GKの好守もあって埼玉が3点差まで追い上げた。しかし埼玉の追撃もここまで、最後は20—12で愛知が勝利をものにした。埼玉の攻撃はやや単調であった。（河戸）

滋　賀 15〔6―6 9―2〕8 北海道
（彦根商高）　（北海道選抜）

○…前半は両チーム共ミスが目立ち1点を争うゲームとなる。前半を終わって6―6のタイ。後半に入って速攻などで滋賀が北海道を突き離し7点差をつけた。（丸谷）

▼2回戦

熊　本 15〔9―6 6―7〕13 大　阪
（熊本選抜）

○…前半立ち上がり、熊本の裵川のロング、上村のステップと得点、一方大阪は速攻で反撃するがパスが今一つ確実につながらず、10分過ぎから大阪は岸間のサイド攻撃を主体に反撃、9―6と熊本の3点で前半終了。後半に入り大阪が激しく追い上げるが、今一歩の所でミスが続き熊本を崩すまでは行かず、15―13で熊本の勝利に。（辻）

奈　良 16〔8―2 8―4〕6 香　川
（奈良選抜）　（香川選抜）

○…スピードに勝る奈良は、早いフットワークにより香川のパスミス、シュートミスを誘い、山内、松崎の速攻と藤江のミドルなどで加点した。また、守ってはGK岡本の好守が目立った。一方香川は、奈良のスピードに乱雑なディフェンスにより退場者を続出させたのが悔やまれる。（杉本）

愛　知 11〔4―3 7―5〕8 広　島
（広島高校選抜）

○…両チーム共動きが悪く、パスミス、シュートミスをくり返したが、5分を過ぎる頃より広島の動きが良くなり、15分3―1とリード。しかし、16分過ぎより勝ちを意識した広島の攻撃が消極的になり、逆に愛知は動きが良くなり矢野のミドル、PTが決まり4―3と逆転して前半を終了。後半に入り10分過ぎまで得点を取り合うも広島はノーマークシュート、PTを愛知GK近藤に阻まれて敗れた。（吉田）

石　川 21〔12―3 9―5〕8 滋　賀
（小松市立女子高）

○…前・後半通じて石川の和田、林のロングシュート及び速い攻撃に滋賀はついていけず、着々と加点された。また、攻撃においても石川のディフェンスを破れずに石川の勝利に終わった。（清水）

▼準決勝

熊　本 16〔5―7 11―8〕15 奈　良

○…裵川のロングを中心にゆさぶりをかける熊本に対し、奈良はサイドシュート、カットインを狙い、1点を争う好ゲームとなった。前半は奈良の2点リードで終わったが後半に入り熊本が徐々に地力を発揮し逆転した。試合終了間際に奈良が速攻を決め1点差に詰め寄りおおいに盛り上がったが、熊本が逃げ切った。（河戸）

〔奈良〕

	選手	得
GK	岡本	0
GK	中谷	0
FP	岡村	1
FP	杉岡	3
FP	南山	6
FP	藤江	3
FP	山内	1
FP	奥田	0
FP	松崎	1
FP	松下	0
FP	小西	0
FP	窪田	0
	PT	(3)
	計	15

〔熊本〕

	選手	得
GK	松野	0
GK	緒方	0
FP	鍬崎	2
FP	裵川	4
FP	清村	0
FP	藤本	3
FP	上村	6
FP	笠井	0
FP	福島	1
FP	中山	0
FP	山形	0
FP	中山	0
	PT	(0)
	計	16

〔審・中本・渡辺〕

石　川 20〔11―6 9―3〕9 愛　知

〔愛知〕

	選手	得
GK	近藤	0
GK	蒔田	0
FP	坂倉	2
FP	小島	0
FP	安東	1
FP	桜井	0
FP	浅井	0
FP	矢野	1
FP	後藤	3
FP	城	2
FP	中山	0
FP	佐藤	0
	PT	(0)
	計	9

〔石川〕

	選手	得
GK	大間	0
GK	川北	0
FP	丹後	2
FP	和田	6
FP	林	6
FP	野田	1
FP	木村	2
FP	米田	0
FP	福田	2
FP	竹田	1
FP	松田	0
FP	奥村	0
	PT	(7)
	計	20

〔審・河戸・中井〕

○…立ち上がり石川が和田のスタンディングシュートで先行し、ポスト、カットインで加点する。これに対して愛知はミスが多く、8分過ぎまで得点がなく後藤のミドルシュートで反撃するが、5点差で前半終了する。後半に入っても石川は愛知のディフェンスの甘さをついて、カットイン、ポストなどで得点を重ねた。（中本）

▼3位決定戦

愛　知 21〔8―6 13―5〕11 奈　良

○…両チーム共少し緊張気味のスタートであったが、2分過ぎ愛知PT、奈良がカットインで得点するや両チーム一気に動きが良くなり、愛知・坂倉、奈良・藤江を軸に1点を争う好ゲームとなった。後半に入ると愛知は安東のポスト、サイド、スカイなどの大活躍で7分で14―7と勝敗を決め、粘る奈良を突き離した。（西沢）

〔奈良〕

	選手	得
GK	岡本	0
GK	中谷	0
FP	岡村	2
FP	杉岡	0
FP	南山	1
FP	藤江	6
FP	山内	0
FP	奥田	0
FP	松崎	2
FP	松下	0
FP	小西	0
FP	窪田	0
	PT	(0)
	計	11

〔愛知〕

	選手	得
GK	近藤	0
GK	蒔田	0
FP	坂倉	5
FP	小島	0
FP	安東	8
FP	桜井	1
FP	浅井	1
FP	矢野	1
FP	後藤	3
FP	城	2
FP	中山	0
FP	佐藤	0
	PT	(3)
	計	21

〔審・辻・堀田〕

▼決勝

石　川 20〔7―6 8―9 2―3 3―1〕19 熊　本

〔熊本〕

	選手	得
GK	松野	0
GK	緒方	0
FP	鍬崎	0
FP	裵川	8
FP	清村	1
FP	藤本	3
FP	上村	5
FP	笠井	0
FP	福島	2
FP	中山	0
FP	山形	0
FP	中山	0
	PT	(0)
	計	19

〔石川〕

	選手	得
GK	大間	0
GK	川北	0
FP	丹後	0
FP	和田	9
FP	林	6
FP	野田	1
FP	木村	1
FP	米田	2
FP	福田	1
FP	竹田	0
FP	松田	0
FP	奥村	0
	PT	(2)
	計	20

〔審・奥田・丸谷〕

○…石川、熊本互いに譲らず、最後の一投まで勝利の女神はどちらに傾くのか予想出来なかった。15―15の同点で第1延長になり、互いに持ち味をフル活用して戦い抜き、19―19のまま第2延長にもつれ込むかに見えたが、残り20秒、石川・米田の速攻で勝利を決定した。（国府）

イオン・クンスト〈ルーマニア〉のハンドボール

59年2月6日　午後の研修内容

担当日本女子体育大学　笹倉清則

2月7日(最終日)午前の内容

今回は、防御についての基本的理論とその後での参加者の3つの質疑応答についての報告です。

それでは防御についてやります。ディフェンスもオフェンスも、4つに分かれました。もちろん一つ一つの技術の練習方法は違います。

1　自分のポジションへの戻り

オフェンスの際に相手チームにボールをとられた場合、素速く自陣に戻らねばなりません。どこのチームでもプレーヤーがよくやっていることですが、シュートに失敗したあともGKの方をじっと見ていてはいけません。その場合、すぐに自陣のディフェンスに戻ります。私はいつも言っていますが、一度シュートに失敗した場合絶対自陣に戻らない。そうでなくて早く自分のポジションに戻ってディフェンスにうつらなくてはいけません。この間試合に行った時、私は大変嬉しかった。

図　1

図　2

個人プレーヤーで、わかるでしょうか、ジョージ、彼は自分のポジションに戻る時、すごいスピードを出して帰りました。そうするのは大変良いことです。

自分のポジションに戻る時に一番良い方法は、自分の最短距離を見つけて一番速く戻るようにすることです。よく、センタープレーヤーが、ロングシュートをうった後自分の元いた位置に戻ろうとしますが、そうではなく一番短い距離にあるポジションに戻ります。

左サイドのプレーヤーはいつも左サイドを守らなくてはなりませんが、オフェンスの際に位置が変わった場合、右サイドから左サイドへ戻るのでは大変時間がかかるので、どちらにしても最短距離をたどって速く戻るようにします。

図—2は自分のポジションを数字で、戻った時のポジションを数字に丸ワクで書いてあります。左サイドのプレーヤーは本当のポジション2がありますが、戻った時は右②へ。

イギリスの防御で大変基本的なことは、プレーヤーが攻撃後、相手チームはボールをとったばかりでたいしてスピードを出していないわけですから、それよりも速く元のポジションに戻ることです。オフェンスの時の深さから比べればディフェンスの方は簡単です。

例えば攻撃し終って左の方を回ってくることもできます。これはたいして難しくない理屈ですが、考えてどうしても速くやらなくてはなりません。一番最初にみんな自分の位置に戻って、自分の所で組織をやるまで暫く待っています。

2　防御の組織

オフェンスがゴール前でパス等した時に、ディフェンスラインは時々組織しなくてはなりません。もしも同じ味方同志隣りだったら3と2でこの場に戻ります。

もしボールが右に行ったら、隣りだから自分達で場所を自在にできます。(図—3)でも、もしボールが自分達の方に来るようだったら絶対に場所は動かないで下さい。オフェンスと比べれば、ディフェンスの方法・技術は大変簡単です。

3　防御の型

これはちょっと難しくなります。図—4を見て下さい。相手をマークする時の位置です。マークのしかたには3種類あります。a、相手をじっと見る。bはマンツーマン、cはポストの前に来てボールを入れさせない。今、ハンドボールの一番基礎的なルールは厳しくなっています。ポストのマークは決めておかないと喧嘩になってしまうので、「あなたは誰のマーク」と決めた方が良いです。もちろん6番のプレーヤーがコーナースローだったら、右サイドのプレーヤーはOFをみなくてはいけません。5番はロングシューター（右45°）、7番はセンターをみなくてはいけません。2番は左サイドを、3番はポストをみます。図—5）だから4番はマークする時に45°プレーヤーのロングシュートに気をつけなければいけません。また、ポストがよく動くので、マークする際に注意していなければなりません。

DFはOFの動きにともなってマークを変えなくてはいけません。もし、ポストが4と5の間に入ったら、3はポストをみないでロングシューターをみなくてはいけません。ハンドボールは自由に動いてかまわないので、OFプレーヤーはいつも動いています。DFはマークする人に合わせて、どうしても動かなくてはなりません。

その時にはよく間違いがおこります。図—6を見て下さい。ポストプレーヤーが2人います。この時、2番と7番はサイドプレーヤーを、3番と6番はポストプレーヤーを、4番と5番は45°プレーヤーをマークします。この考

図 3

図 4

図 5

図 6

図 7

えを覚えて下さい。ポストが2人いる時、DFは6人並んでエリア内から変化しなければなりません。2―4DFになります。（図―7）もしDFプレーヤーが6人並んでやるなら、これは一番良いやり方だと思います。もし違う様にやるなら、間違わずにやらなくてはいけない。

▼0―6ディフェンス

図―8は一人一人の守る範囲がかいてあります。2番のプレーヤーはゾーンのサイドから3番の足の位置まで、3番は2番から4番の位置まで、4番は3番から5番の位置まで…。OFが前に来たら動いて、他人のゾーンだったら見ないというのではなく、自分もOFの方に寄っていきます。わかりましたか？これはむずかしいくらい簡単なものばかりです。許して下さい。簡単なものでもしつこいくらい教えなくてはいけない。

もし、試合の時相手から18本のゴールを決められ、その内7本が速攻、6本がフリースローからゴールイン、5本がシステムボールだったとします。この事では、後でトレーニングをする時に何を注意しなくてはならないか？フリースローから6本シュートが入った時だったら、DFが規則を守っていないので、指導者が練習の時に規則を教えなければいけない。

18本ゴールインした場合、速攻の7本、フリースローからの6本、システムボールの5本を次の試合ではそれぞれ2本、3本、2分の1の本数にするように心がける。

DFがよくなければ、相手にシュートを入れられる回数が減ります。DFはボールが行く所に動かなくてはいけないし、相手が来る所に動かなければなりません。ピストンのように、前に出て後ろにもどります。図のようにボールが右から左に動く時、6番のプレーヤーは前に出て後ろにもどる際に、少しななめにもどります。この場合、DFはボールのある方へ寄って行かなければなりません。ボールを持っていないプレーヤーは、ゴールに入れる事はできません。ボールを持っているプレーヤーがゴールに入れる事ができるのですから、DFをする時にはいつも考えてほしいです。（図―9）

DFが1人余るように守ります。サイドプレーヤーからパスをした時、サイドのマークがいなくなってしまうので、7番は、左に移動した際にロングシューターとサイドの2人のOFを見るようにします。するとDFは1人余ります。ですから、いつも頭数を考えて、DF1人が2人のOFを見ればDFは1人余ります。もう一つ戦術的な事ですが、もし3番のプレーヤーが前に出て45°をマークし、左サイドプレーヤーが3番の下に入って来たら、2番のプレーヤーは4番のプレーヤーの所までサイドOFをマークしなければいけません。3番が前に出た際、2番はチェンジの声を出します。45°がボールを持っている場合は、移動してマークしなければならないので2番は4番の所までサイドOFを見ています。理論的には、EDが2番と4番の間に入って来て、5番と6番が前につめた時、7番は4番の所までの空間を守らなければなりません。（図―10）

このピストン動作をやりました。いつもポストプレーヤーをDFするといろいろ問題が起こります。ロングシューターがいる所にポストがいると良いです。もしロングシューターがボールを持っていてポストが図の位置にいたら、3番はポストを考えないで前につめて

行きます。ロングシューターがボールを持っている場合、シュートをうつか、ポストにおとすかします。3番のDFが瞬間につめればシュートを防げます。また、ポストにおとしたならその分時間がかかるので4番がDFすることができます。左のロングシューターから右のロングシューターにパスした場合、6番は前につめて、3番はさがってポストを見、4番は左ログシューターを見ます。この事はたいへん大切で、基本的な事です。(図―11)

▼1・5ディフェンス

日本では、トップはフリースローラインから出るという考え方がありますが、私達はちょっと方法を変えました。トップはフリースローラインのところにいて、センターから左45°にパスが出た場合、3番は前につめるので、トップは3番のつめたあとをフォローしてDFをする。左45°がフェイントしてインに入って来たら、トップはそれをフォローする。(図―12)

左45°から右45°へボールがまわった場合、トップは最短距離で右45°の方をDFする。そして、センターにボールが行ったら、再び初めの位置に戻る。だからトップは三角形の動きをする。(図―13)

私のところに、身長が197cmというトップがいます。以前は、トップは背が低く単発な動きをしていました。そこで私は考えて、背の高いトップをおいたところ、相手のポストプレーヤーにボールがパスされる時、カットすることができました。

今まで日本人の試合をみて、一番多かったのは6人の一線防御です。日本人はあまり沢山ロングシュートをうちません。ユーゴスラビアチームは、よくロングシュートをうちます。そこでDFですが、エリア内3人続いて、5、6はエリア内の真ん中ぐらいにいてトップはフリースローラインの所にいます。3人はエリアラインの所でDFし、2人はエリア内の真ん中ぐらいにいます。これは1972年のミュンヘンオリンピックの時に見られました。

OFをやる時に一番疲れるのはロングシューターです。優勝した時のチームは、6と2はOFで疲れるのでDFはサイドをやりました。この方法がどうして良いかというと、3人のDF(3、5、4)がいて、相手のロングシュートを防ぎます。OFaがボールを持っていたら、4番は前につめ、そのフォローにトップが下がります。こうすると、ボールを持っている人に対して2人のDFがつくことになります。サイドOFbがセンターDFの方まで来たら、2番は前に説明したように、センターDFまでマークしなければいけません。一番難しいのは5番のプレーヤーです。ポストCがいる

図 8

図 13

図 9

図 14

図 10

図 15

図 11

図 16

図 12

図 17

時は、右サイドの方まで動かさねばなりません。もし、左サイドにポストcが動いたら、3番はすぐに戻ってポストcをマークしなければいけません。これは、ユーゴでも初めてですが、世界のエントリーチームではやっています。DFの時の一番良い方法ではないでしょうか。3番と4番は、いつもボクサーのようなフットワークが必要です。(図―16)

マンツーマンのやり方を説明します。大変簡単なやり方です。

今まで何故バスケットボールのようにマンツーマンをやらなかったのかという質問がありました。

バスケの選手はボールを持っていると、ステップは1回だけですが、ハンドの場合はステップを3回します。だから、バスケに比べてマークが大変難しいのです。

しかし、時々試合でマンツーマンをやります。そして理論的には、マークする時にプレッシャーをかけます。この場合、コート全体でDFはOFにプレッシャーをかけています。(図―17)

図―18の場合は点線のゾーンのみプレッシャーをかけています。図―17ではOFに利点があります。それは、もしDFを1人抜いたらボールをもらってシュートすることができるということです。

ルーマニアの監督は、ジュニアをつかう時に決まったことだが、昨年から今年まで、試合開始後30分間だけマンツーマンでやることにした。図―18で、DF2がいて、OFaが外側にいます。もしDFの1人が退場になったら5人で守ります。これは、昨年からジュニアの間で行われています。ソ連が決めてやっています。私はOFの方を大切にします。

前述したようなやり方はジュニアが良いDFプレーヤーをつくるために取り入れた方法で、まだ最近始めたばかりなので、子供が大きくなるまではよくわかりません。(図―19)

図 18

図 19

図 20

質疑応答

Q：この間、日本で試合が行われて来た時の、審判員の処置の仕方について、どう思われましたか？

A：たいへん良かったと思います。アメリカのレフリーに比べて日本人のレフリーは良かったと思います。ハンガリーの試合をやった時、千野さんのレフリーを見ました。もう少し厳しくした方が良いでしょう。乱暴が多過ぎる。押したり、つかまえたり。シュートをする時のステップにも問題があります。もしもヨーロッパでレフリーをするなら、もう少し多くオーバーステップの反則をとります。もう一つの問題は、OFがDFを抜く時、故意的にDFがファールした場合、日本人のレフリーはすぐに笛を吹いてしまう。もう少し待てばサイドにパスでき、シュートにいけたかも知れない。私達インターナショナルのハンドボールは、いつもレフリーの笛で動きます。レフリーが口に笛を持ってくる間に、パスをまわすことができます。ファールをした時、DFがボールを防いでいたらフリースローになります。シュートする体勢だったら7mスローになります。もし、DFがボールをとろうとしないで、OFに乱暴したら、イエローカードを出し、退場にします。日本人は乱暴が多過ぎます。2回退場したら、監督はDFでは出さずに、OFだけやるように決めた。

Q：初めからレッドカードが出たことがありましたか？

A：ありません。ただ、ひどい乱暴をした時はすぐにレッドカードです。ハンドボール協会ではきれいなハンドボールをやりたいです。

Q：シュートモーションの時についてお願いします。

A：DFが両手を上げて、シュートボールを防ぐのは良いが、後から手をひっかけたりした時は2分間の退場となります。

シュートする時、DFがOFのボールだけをカットするのは良い。もちろんDFはエリア外で行います。

ルーマニアでは、シュートする人に対してボールだけ防御するように教えます。また、ボールをヨーヨーのようにして練習します。ボールにゴムひもをつけて投げたら戻って来るようにすると時間がかかりません。2m30cm位のひもをつけて行いますゴールキーパーの練習の時も使います。足を使う為に、上へ投げたり下へ投げたりします。

Q：ジャンプシュートに関するDFのやり方で、ボールをカットするのなら良いが、かげんの問題で、DFが前につめて、ボールに手が届かなくて、OFのパーシングの手にあたった場合はどうなるのですか？チャージングとフリースローの基準についてお願いします。

A：OFプレーヤーが自分からぶつかって行くのなら問題はありませんが、DFが故意的にOFの手にあたって行ったらフリースローです。OFからDFにぶつかって行った場合はチャージングです。

Q：試合を見た時の日本人の印象はどうですか？

A：ルーマニアではAリーグに12チームいます。日本で一番良いチームはルーマニアで6番か7番目位です。

DFの際、日本人はあまり動きません。エリアに近い所でDFしています。だからソ連などロングシュートをうつところはエリアに近づき過ぎていると、簡単にうたれてしまいます。

Q：ルーマニアでのハンドボールの試合の観客はどのくらいいますか？

A：男女各2チームずつあって、いつも日曜日に試合があります。男子も女子も試合があります。一年におよそ22回試合します。国際試合もします。一番大きいところで二千人位の観客がいました。

去年の11月頃、チャンピオンカップの試合がありましたが、体育館に入れない観客もいた。警察官も出て大騒ぎでした。生放送でTVもやりました。

これは一番大きい試合で、普通は千五百人位です。何故知りたいのですか？オーケストラの指揮者は絶対に他のを見ようとはしません。

Q：給料は高いですか？

A：ルーマニアは4つに分かれています。

Ⅰ→AOO…400。

Ⅱ→PEF…5年。体育の先生とほぼ同じ。

Ⅲ→IFE…3年。体育大を出た人がなれる。

Ⅳ→YHA…3年。講習会をした人だけが入れる。

Ⅲ・Ⅳは3年間たって試験を受ければ上に上がれます。Ⅱも、5年たって試験を受ければ上がれます。洋服は高いけど食料品は安いです。

Q：男と女の教え方は？

A：男と女とでは、違うところもあります。また、男でも子供と大人の教え方は違います。女子は体つきも違うので……。叱ったりはします。もちろん、トレーニングは厳しいです。

Q：精神力をつけるには？

A：自分がやりたいという意欲、冷静さや道徳心、言われてすぐわかる頭の良さが必要です。

ヒマラヤに登るのに、何もしないで行くのは無理です。練習しなくてはなりません。どうしてもやりたいけれどできないような時は練習します。二つ目の冷静さは教育の時に言葉を使って教えます。怒る場合もあるし、ほめる場合もあります。三つ目は人間みな違います。日本の教育の中の実践教育です。実際的な事ではなく、精神的な事です。

ビデオを見る時、選手がどこにいて、どういう動きをしているのか話すようにしています。

何故、今ゴールに入ったのか、何故ポストがつかまったのか等どんどん話すようにしています。監督と選手がいつも話すようにして下さい。

選手はどうしてもオリンピックに行くために頑張らなくてはいけません。自分の国を大切にすることを選手達に教えなければいけません。

2月7日(最終日)午後の内容

1．トレーニング方法

a　サーキットトレーニング

左図の様な配置で、3人一組となり、7種目を行なう。1種目の所要時間は、1分30秒で行ない、次の種目へ移動する。

ネット
6 マット
4 とび箱
GK
ボール
5 長いす
3 バーベル(大)
1 バーベル(小)
2 メディシングボール

図 21

(1)　バーベル（小）

3人のうち1人が両手にバーベルを持ちいろいろな動きを入れてトレーニングする。30秒間ずつで、交替する。

(2)　メディシンボール

メディシンボールは2個用意する。一つは2人一組になりパスキャッチする。パスはプッシュやショルダーで出来るだけ速い動作で早いパスをする。残りの一人はもう一つのボールで上図の様に肩にかついで屈伸する。30秒ずつで、2人組を変える。

(3)　バーベル（大）

1人ずつ30秒間バーベルを持ち上げる。

(4)　とび箱

3人同時に、2分30秒間連続し

て、とび箱に手をつきとび上がり大きくジャンプして、空中で体を充分伸ばし、マットに静かに着地する。これを時間内に出来るだけ速く正確にくり返す。

(5) 長いす

3人同時に長いすを連続して両足ジャンプで左右に跳び越す。

最初の30秒間行ない、30秒休み、また30秒と行なう。

(6) マット

マットの上で図の様にリラックスした姿勢で、まずひざを伸ばして足を頭の上につけ、続いて前屈する。これをゆっくり2～3回くり返す。3人交替して行なう。

(7) キーパー練習

1分30秒間、3人で連続してステップシュートを行なう。

以上の7種目を2～3まわり、くり返す。

2．W・UPの時間を短くするパスワーク

4ポイントでのパスワーク出来るだけ早く行なう。パスをして次の順になるまで a肩をまわす。b屈伸する。c体操する。Dバービーステップetcをする。

3．DF練習

DFは、ボールを持っているOFに対して前につめる。つめて戻る時、小さなステップで戻る。

DFは戻る時、ボールがまわっている方向の斜め後に戻る。

ボールを使わないで、一人の指示に従って前後左右に動く。

4．OFのパス回し

サイドから回し、1往復で1回。それを20回やる。(その場で) 何秒できるか。

5．GKの練習

GKの足元に向けてなげる。左右交互に行なう。上に向けて投げる。

左右の人が交互に上下に向けて投げる。

フリースローラインに8人並ぶ。

左サイド、右サイド、左45°、右45°…と交互にシュートをする。なるべくゴールの中にシュートを入れるようにする。

次はサイドから、ジャンプシュートをうつわけですが、フリースローラインより1m離れたところからシュートをうつ。

GKは、左右に速く移動する。

次は7mスローからのキーパー練習。何本中何本キープできるか数える。

もう一つやり方がある。これはナショナルチームで行っている。

半面で3対3をやり、もう半面では3人がかわるがわるシュートをうつ。ある程度やったら3対3をやっていたDFはもう半面の方でDFとなり、シュートをうっていた人達がDFとなって3対3をやる。

交替でやる。

今回はありがとうございました。私は心から日本のチームが勝つようにお祈りしています。

バーベル　メディシンボール　バーベル　とび箱　長椅子　マット

図 25

図 22

図 26

図 23

図 27

図 24

図 28

ロサンゼルス・オリンピック
レフェリー観察の報告

日本ハンドボール協会ルール研究委員
後藤登、島田房二

オリンピック参加のレフェリー（11ペア）全員を見学することができた。各々のペアで多少の基準の違いが見られたが、1試合を通してみると同じ基準で笛を吹かれていることがよくわかった。

以下列記した事は、観察記録の抜粋である。

◦選手の競技場への入場は、レフェリーが先導する。

◦試合前、試合後に監督と笑顔で握手している。

◦横、後方より"つかむ""押す"プレイには厳しく対処、特に空中にジャンプしているプレイヤーに対してのアタック（突く）には厳しい。

◦注意→警告→退場と段階的に適用されている。よほどひどい反則でない限り、一発退場のような判定は見られなかった。

◦ペアによって基準のずれはあるが、日本で警告にあたいする最初の反則において注意ですませている。くり返す場合は段階的に適用される。

◦3回の警告をすませてからの退場が多かった。

◦レフェリーの笛の音は、一つ一つ大きく、そして長く吹かれている。

◦オーバーステップ、チャージングを大変良く見ている。

◦ペナルティスローの際のシューターの反則（ラインクロス、ポイントオーバー）を見逃さない。

◦サイドシュート、ポストシュートの際の着地を見逃さない。ディフェンスの反則があれば、着地のゼスチャーをしてペナルティスローにする。

◦選手がもつれてどちらのボールかわからない時には、笛を長く吹き、はっきりとゼスチャーをする。

◦興奮した選手に対しては"落ち着け"のゼスチャーをする。態度はゆっくり、大きく、決して急がない。

◦ゴールレフェリー側のサイドからボールが出て、ゴールレフェリーのゼスチャーは、コーナーからのスローインと同様にポイントを示しコートに背中を向けない。センターレフェリーもスローインのゼスチャーで協力をする。

◦ディフェンス、オフェンスが押し合った後、小康状態から次の動きで肩からディフェンスに突っ込みでチャージングの判定が何回か見られた。

◦試合前、ハーフタイムにおいて3分前の笛は吹かれない。

◦スローオフは、コートの中央からきちんと行なわせている。

◦多くのレフェリーがフリースローライン上のフリースローのポイントを細かく指示しているサイドによった場所であってもポイントを指示する。

◦タイム・アウトで中断の後のフリースローは、ディフェンスに3mの距離をきちんと守らせる

◦試合中負傷者の出た場合、レフェリーはすぐチーム責任者を呼び入れる。動けない場合は、すぐ医師とタンカが入ってきて負傷者をすみやかにコート外へ出している。

◦ゴールレフェリーのペナルティスローのゼスチャー。笛を吹きながらペナルティスローラインをさし、ペナルティスローラインの上に乗り、ゴールの方向に向きを変えゴールに向って方向指示をする。

◦ペナルティスローを行なう笛を吹く時のセンターレフェリーのゼスチャー。笛と同時に片手を上から横へ方向指示と同様におろす。①レフェリーの胸の前に折った腕を横に伸ばす。②レフェリーがいる。大観衆の中での試合では、笛の音だけでなくゼスチャーを使って示す。（図1）

◦反則があったがレフェリーが続行可能、特に影響なしと判断した場合のゼスチャー。（図2）

・レフェリーは腕を攻撃方向に伸ばす。①

・レフェリーは片手を上にあげ手首より上を回す。②
・レフェリーは両手を上にあげ両手を上、下に動かす。③
独自のゼスチャーを持つ。

〈図 1〉
〈図 2〉

。東ドイツのレフェリーは、ポジションチェンジの時にクロスしてチェンジをしている。一言二言話し、いつもコンタクトをとり合っている。
。ボールを持たないポストでのディフェンスをオフェンスの位置のとり合いで、プレーを流しながら両者にやめろのゼスチャーをする。それにもかかわらず押し合いを続けている両者共退場の場面が何度も見られた。
。ポストのディフェンスが初めからゴールエリアの中に入って守っている時にゴールレフェリーが注意。さらに行なえば警告をする。
。速攻の時、レフェリーはプレイヤーと並んで走らずに遅れた時は斜め後方よりプレイヤーを観察する。
。大会途中（3日目）審判の基準に変化がはっきり見えた。試合後のミーティングの影響と思える。

＜日本のレフェリングとの相違点が見られたもの＞（ルールの解釈、適用等）
。ジャックルに対する解釈（ルールブック7：7及び原注）
。明らかな得点のチャンスに対する考え方（ルールブック14：1a）
。ポストプレイヤーに対する正面でのホールディング。正面での反則に対しては罰は軽い。（手の使い方が日本人と違う）
。ポスト、サイドシュートにおいて、反則があってもシュートを完全に打ち切っていればペナルティスローの判定をしない。（ルールブック14：9）
。ホールディングの反則をしていても、つかまっているプレイヤーが動ける場合は、ルールの許す限り流して見ている。（ルールブック13：6）
。注意、警告、退場の基準が少し違うようだ。

オリンピックを見終えて

オリンピックの試合は肉弾戦であった。大男の体と体の戦い、豪腕なアタッカーのシュート、それを必死で防ごうとするディフェンスの壁、また、それと逆に計算しつくされた緻密な連携プレイ、迫力ある超一流のプレイは見ている者を沸かせる。陰にまわって選手にこれらの力を充分に発揮させるのがレフェリーである。

オリンピックのレフェリーは、ペアによって判定基準に差はあるものの、そのペアの受け持つ試合の中での基準はしっかりしている。また、笛は実におおらかである。神経質なところが見られない。国民性の違いかも知れないが、日本のレフェリーはルールに忠実である。しかし、時にそれがレフェリーが選手をおさえ込んで管理することになっていることもあるようだ。

最初にオリンピックの試合は肉弾戦であったと書いたが、レフェリーはそれを荒くさせない技術と能力を持っていた。粗暴なプレイ、危険なプレイに対しては厳しく対処する威厳のある笛。良いプレイの芽を伸ばし、悪い芽はレフェリーがきちんと摘んでいた。配慮された笛、選手にのびのびとハンドボールをプレーさせているレフェリーに感心させられた。

レフェリーとプレイヤーが同じ方向に向いた時、初めて日本のハンドボールも世界に追いつくのではないかと感じた。

おわりに

今回、私たちにこのような機会を与えて下さいました日本協会、岡前審判部長はじめ現地においてレフェリー観察に協力下さいましたIHF理事渡辺和美氏、NHK杉山茂氏、東京都ハンドボール協会の佐藤和孝、酒井伸夫両氏ならびに関係各位に心からお礼申し上げます。今回オリンピックのレフェリー観察が日本のレフェリー技術の向上に役立つ様努力したいと思っております。

（他にロサンゼルス・オリンピック全試合のスコア、審判名が付されていましたが、省略させていただきました。＝編集委員会）

各地学生秋季リーグ戦

北海道学生

▼男子1部

函館大 33－19 北海学園大
北大 25－17 北教大旭川
室蘭工大 23－13 北星学園大
北大 22－17 北海学園大
函館大 35－12 北星学園大
北海学園大 25－23 北教大旭川
函館大 29－13 室蘭工大
北大 26－11 北星学園大
北教大旭川 27－10 北星学園大
北海学園大 31－14 室蘭工大
北大 33－6 室蘭工大
函館大 25－18 北教大旭川
北海学園大 22－11 北星学園大
室蘭工大 19－17 北教大旭川
北大 18－13 函館大

〔順位〕
①北海道大
②函館大
③北海学園大
④室蘭工大
⑤北海道教育大旭川
⑥北星学園大

▼女子

北教大旭川 21－13 北海学園大

〔順位〕
①北海道教育大旭川
②北海学園大

東北学生

▼男子1部

岩手大 29－23 山形大
東北学院大 39－17 東北工大
仙台大 33－10 福島大
東北学院大 40－21 山形大
岩手大 22－18 福島大
仙台大 50－12 東北工大
岩手大 31－15 東北工大
仙台大 33－21 東北学院大
福島大 23－20 山形大
東北学院大 27－24 岩手大
仙台大 44－22 山形大
福島大 27－19 東北工大
山形大 27－16 東北工大
東北学院大 40－25 福島大
仙台大 40－17 岩手大

〔順位〕
①仙台大
②東北学院大
③岩手大
④福島大
⑤山形大
⑥東北工大

▼女子

岩手大 23－4 東北福祉大
福島大 21－16 山形大
福島大 20－15 東北福祉大
岩手大 29－10 山形大
岩手大 25－13 福島大
山形大 18－10 東北福祉大

〔順位〕
①岩手大
②福島大
③山形大
④東北福祉大

関東学生

▼男子1部

中大 32－17 国士大
筑波大 23－14 日体大
日大 27－13 順大
法大 23－15 早大
国士大 36－21 早大
筑波大 33－16 順大
日大 28－19 日体大
中大 25－21 法大
早大 31－18 順大
日大 34－11 法大
筑波大 30－23 国士大
中大 31－31 日体大
早大 17－16 日体大
中大 31－17 順大
法大 23－22 筑波大
日大 25－22 国士大
国士大 30－16 順大
日体大 18－17 法大
日大 30－27 中大
筑波大 31－19 早大
法大 27－14 順大
国士大 29－25 日体大
日大 37－18 早大
筑波大 33－21 中大
日体大 33－17 順大
国士大 34－23 法大
中大 30－21 早大
筑波大 25－22 日大

〔順位〕
①日本大
②筑波大
③中央大
④国士舘大
⑤法政大
⑥日本体育大
⑦早稲田大
⑧順天堂大

▼女子1部

筑波大 28－10 東学大
筑波大 23－11 東学大
日体大 39－11 東海大
日体大 35－13 東海大
東女体大 32－9 東学大
日女体大 17－15 東海大
東女体大 22－9 東学大
日女体大 13－10 東海大
東女体大 34－4 東海大
筑波大 18－10 日女体大
日体大 33－13 東学大
東女体大 34－8 東海大
筑波大 26－16 日女体大
日体大 30－7 東学大
東学大 20－16 東海大
日体大 30－15 日女体大
筑波大 17－16 東女体大
筑波大 19－18 日体大
東女体大 24－7 日女体大
東学大 17－12 東海大
東女体大 35－10 日女体大
日体大 28－24 筑波大
日女体大 10－10 東学大
筑波大 29－7 東海大
東女体大 27－24 日女体大
日体大 31－17 日女体大
筑波大 23－21 東女体大
日体大 30－22 東女体大
東学大 15－13 日女体大
筑波大 38－11 東海大

〔順位〕
①筑波大
②日本体育大
③東京女子体育大
④東京学芸大
⑤日本女子体育大
⑥東海大

東海学生

▼男子1部

中京大 29－23 中部大
中京大 39－16 名城大
中京大 29－15 南山大
中京大 42－18 愛学大
中京大 43－19 名古屋大
中部大 21－16 名城大

各地学生秋季リーグ戦

中部大 41－23 南山大
中部大 42－19 愛学大
中部大 39－20 名古屋大
名城大 24－17 南山大
名城大 33－17 愛学大
名城大 29－14 名古屋大
南山大 23－19 愛学大
南山大 31－19 名古屋大
愛学大 24－23 名古屋大

［順位］
①中京大
②中部大
③名城大
④南山大
⑤愛知学院大
⑥名古屋大

▼女子

中京大 18－15 中京女大
中京女大 26－17 中京大
中京女大 32－11 愛教大
中京女大 25－11 愛教大
中京女大 43－10 岐阜大
中京女大 39－6 岐阜大
中京大 25－18 愛教大
中京大 18－14 愛教大
中京大 35－8 岐阜大
中京大 28－6 岐阜大
愛教大 18－9 岐阜大
愛教大 16－9 岐阜大

［順位］
①中京女子大
②中京大
③愛知教育大
④岐阜大

北信越学生

▼男子1部

信州大 23－14 長野大
金沢工大 28－16 富山大
金沢大 36－16 信州大
富山大 25－13 長野大
金沢工大 19－16 金沢大
金沢大 24－14 長野大
金沢工大 19－12 信州大
金沢大 28－20 富山大
金沢工大 28－17 長野大
信州大 18－18 富山大

［順位］
①金沢工大
②金沢大
③富山大
④信州大
⑤長野大

関西学生

▼男子1部

京産大 27－21 天理大
同大 22－19 近大
大体大 30－15 関大
阪大 22－22 関大
天理大 24－24 近大
近大 32－24 阪大
同大 27－16 関大
同大 22－22 天理大
大体大 38－15 京産大
天理大 30－26 関大
同大 35－22 阪大
京産大 18－18 関大
大体大 31－18 阪大
大体大 35－21 近大
同大 22－20 京産大
京産大 24－18 阪大
大体大 32－15 天理大
近大 25－19 関大
京産大 24－21 近大
天理大 27－17 阪大
大体大 30－13 同大

［順位］
①大阪体育大
②同志社大
③京都産業大
④天理大
⑤近畿大
⑥関西大
⑦大阪大

▼女子1部

大体大 61－5 和歌山大
大教大 28－9 京教大
武庫川大 39－5 和歌山大
武庫川大 38－8 京教大
大体大 36－9 天理大
大教大 30－13 和歌山大
天理大 16－15 京教大
大体大 42－10 京教大
大教大 26－10 天理大
京教大 35－10 和歌山大
大体大 39－7 成蹊女短
武庫川大 35－6 成蹊女短
天理大 28－10 和歌山大
大教大 17－8 武庫川大
成蹊女短 16－12 京教大
大体大 18－17 武庫川大
大教大 29－11 成蹊女短
成蹊女短 22－15 天理大
成蹊女短 34－5 和歌山大
武庫川大 41－8 天理大
大体大 21－17 大教大

［順位］
①大阪体育大
②武庫川女子大
③大阪教育大
④成蹊女子短大
⑤天理大
⑥京都教育大
⑦和歌山大

中四国学生

▼男子1部

広島大 19－14 愛媛大
広島大 16－12 山口大
広島大 16－15 松山商大
広島大 20－11 鳥取大
愛媛大 21－19 山口大
愛媛大 19－17 松山商大
愛媛大 21－19 鳥取大
山口大 25－13 松山商大
山口大 32－21 鳥取大
松山商大 24－21 鳥取大

［順位］
①広島大
②愛媛大
③山口大
④松山商大
⑤鳥取大

▼女子Aリーグ

広島大 12－8 高知大
広島大 13－11 岡山大
広島大 20－18 香川大
香川大 24－12 高知大
香川大 26－13 岡山大
高知大 20－12 岡山大

［順位］
①広島大
②香川大
③高知大
④岡山大

〈各地の学生秋季リーグ戦の結果をお伝えしました。残念ながら誌面の都合で1部の成績しか掲載出来ませんでしたが、2部以下の成績、及び入れ替え戦については、次号（2月号）でお伝えする予定です。＝編集委員会〉

各地の記録から

第3回青森県社会人クラブ対抗

（8月12日）

▼1回戦
紫球会 12－9 四日市ストッパーズ
十和田ク 14－4 東朋会
東北電力 10－8 青商ク
愛好会
五鉄 13－8 サザーン
スターズ

▼2回戦
十和田ク 15－8 紫球会
東北電力 15－12 五鉄
愛好会

▼5～6位決定戦
四日市ストッパーズ 19－10 東朋会
サザーン 12－0 青商ク
スターズ
サザーン 10－7 四日市ストッパーズ
スターズ

▼決勝
東北電力 10（8－6、2－4、1－1、1－1、PTC）10 十和田ク
愛好会 3 2

第39回大阪府秋季高校総体

◎北ブロック予選（8月15～17日）

〈男子〉

▼1回戦
桜塚 19－10 箕面
北野 21－5 東豊中
豊島 10－6 箕面学園

▼2回戦
都島工 23－8 桜塚
北淀 16－12 千里
大阪学院 15－6 西淀川
北陽 17－5 北野
豊中 32－4 追手門
市岡 22－7 渋谷
吹田東 23－6 園芸
大阪商 25－6 豊島

▼3回戦
都島工 26－9 北淀
北陽 17－7 大阪学院
豊中 23－17 市岡
大阪商 28－3 吹田東

▼準決勝
都島工 24－7 北陽
大阪商 20－3 豊中

▼決勝
都島工 18－9 大阪商

※上位4校が中央大会へ。

〈女子〉

▼1回戦
福島女 10－9 豊島

▼2回戦
宣真 23－7 福島女
金蘭会 8－4 北淀
北野 18－2 渋谷
薫英 13－7 市岡
豊中 10－8 刀根山
桜塚 13－5 千里
西淀川 8－6 成蹊
箕面 10－5 梅花

▼3回戦
宣真 22－5 金蘭会
薫英 21－8 北野
桜塚 14－8 豊中
箕面 15－3 西淀川

▼準決勝
薫英 20－11 宣真
桜塚 17－11 箕面

▼決勝
薫英 13－9 桜塚

※上位4校が中央大会へ。

◎南ブロック予選（8月15～18日）

〈男子〉

▼1回戦
初芝 36－3 佐野工
泉北 17－7 信太
泉陽 25－4 堺西
岸和田 14－13 商大堺
高石 17－1 長野
岸和田産 16－4 長野北
堺工 15－12 上神谷
富田林 19－11 泉大津
住之江 25－8 和泉工

▼2回戦
三国丘 16－12 初芝
泉北 18－13 金岡
泉陽 19－5 岸和田
久米田 18－17 高石
和泉 16－8 堺東
泉鳥取 17－8 富田林
登美丘 21－12 住之江

▼3回戦
三国丘 18－11 泉北
久米田 15－13 泉陽
和泉 12－11 岸和田産
登美丘 29－13 泉鳥取

▼準決勝
久米田 14－12 三国丘
登美丘 25－8 和泉

▼決勝
登美丘 18－14 久米田

※上位4校が中央大会へ。

〈女子〉

▼1回戦
泉大津 11－8 堺東
久米田 21－7 貝塚

▼2回戦
住吉学園 33－1 泉大津
伯太 17－2 上神谷
三国丘 7－4 和泉
長野 9－8 高石
鳳 12－5 信太
初芝 15－8 泉鳥取
東百舌鳥 12－12（2PTC0）岸和田産
久米田 25－0 岸和田

▼3回戦
住吉学園 29－2 伯太
三国丘 11－5 長野
初芝 18－4 鳳
久米田 21－8 東百舌鳥

▼準決勝
住吉学園 26－2 三国丘
初芝 14－6 久米田

▼決勝
住吉学園 18－6 初芝

※上位4校が中央大会へ。

◎東ブロック予選（8月15～17日）

〈男子〉

▼1回戦
寝屋川 17－4 鳥飼
摂津 25－9 守口北
茨木東 14－10 島本
同志社香里 16－10 島上
芥川 16－3 茨木
四条畷 24－8 牧野
加納 19－5 高槻北
浪商 22－5 交野
門真南 12－8 門真
西寝屋川 17－13 春日丘
城東工 15－14 枚方
淀川工 16－7 磯島
南寝屋川 不戦勝 食品産業
茨木工 19－7 大東

▼2回戦
三島 15－14 寝屋川
摂津 17－3 茨木東
同志社香里 15－8 芥川
加納 18－11 四条畷
浪商 18－6 門真南
西寝屋川 27－14 城東工
淀川工 17－8 南寝屋川
茨木工 28－14 長尾

▼3回戦
摂津 13－13（1PTC0）三島
加納 28－8 同志社香里
浪商 10－10（3PTC2）西寝屋川
淀川工 15－6 茨木工

▼準決勝
加納 17－14 摂津
淀川工 14－4 浪商

▼決勝
淀川工 13－10 加納

※上位4校が中央大会へ。

〈女子〉

▼1回戦
南寝屋川 10－7 大東
枚方 18－8 交野

高槻北 不戦勝 三島
東寝屋川 7－6 茨木
牧野 17－7 茨木東
▼2回戦
春日丘 18－9 南寝屋川
守口北 8－7 長尾
枚方 27－5 島本
門真 14－8 東寝屋川
西寝屋川 没収 門真南
芥川 7－4 香里丘
摂津 17－10 牧野
▼3回戦
春日丘 23－6 守口北
枚方 9－7 門真
寝屋川 12－6 西寝屋川
摂津 17－7 芥川
▼準決勝
春日丘 18－5 枚方
寝屋川 12－6 摂津
▼決勝
春日丘 20－10 寝屋川
※上位4校が中央大会へ。

◎中ブロック予選（8月15～17日）
〈男子〉
▼1回戦
柏原 16－16 PTC 1－0 池島
上宮 14－14 PTC 3－2 八尾
東住吉 8－6 八尾東
大和川 15－9 山本
阪南 26－6 阿倍野
花園 15－14 生野
住吉 19－11 高津
藤井寺工 12－8 商大附
▼2回戦
此花学院 29－6 柏原
上宮 キケン 勝山
清風 12－3 東住吉
羽曳野 13－12 大和川
阪南 13－13 PTC 3－2 天王寺
花園 16－4 教大平野
住吉 17－12 藤井寺
桃山学院 27－3 藤井寺工
▼3回戦
此花学院 20－11 上宮
清風 18－3 羽曳野
阪南 17－9 花園
桃山学院 22－6 住吉
▼準決勝
此花学院 23－13 清風
桃山学院 27－9 阪南
▼決勝
桃山学院 18－12 此花学院
※上位4校が中央大会へ。

〈女子〉
▼1回戦
大和川 16－5 山本
八尾 11－9 住吉
樟蔭東 8－4 西浦
信愛女学院 23－4 東大阪
天王寺 14－5 高津
▼2回戦
四天王寺 25－4 大和川
鶴見商 14－5 生野
池島 5－4 清友
東住吉 15－4 八尾
樟蔭東 6－5 阪南
八尾東 7－6 藤井寺
信愛女学院 9－6 城南
天王寺 7－6 大谷
▼3回戦
四天王寺 14－2 鶴見商
東住吉 18－2 池島
八尾東 7－6 樟蔭東
信愛女学院 16－9 天王寺
▼準決勝
四天王寺 29－3 東住吉
信愛女学院 20－5 八尾東
▼決勝
四天王寺 17－2 信愛女学院
※上位4校が中央大会へ。

◎**中央大会**（8月19、20日）
〈男子〉
▼1回戦
都島工 22－11 此花学院
淀川工 18－7 和泉
桃山学院 20－8 登美丘
北陽 17－13 阪南
大阪商 23－10 清風
加納 22－14 豊中
摂津 22－8 久米田
三国丘 9－7 浪商
▼2回戦
都島工 15－8 淀川工
北陽 18－15 桃山学院
大阪商 17－7 加納
摂津 18－11 三国丘
▼準決勝
都島工 20－6 北陽
大阪商 18－14 摂津
▼決勝
都島工 13（7－6、6－6）12 大阪商

〈女子〉
▼1回戦
住吉学園 20－11 信愛女学院
枚方 15－4 東住吉
初芝 没収 八尾東
摂津 13－7 久米田
四天王寺 20－0 三国丘
寝屋川 16－10 桜塚
宣真 10－8 春日丘
薫英 19－9 箕面
▼2回戦
住吉学園 8－3 枚方
摂津 8－5 初芝
四天王寺 27－2 寝屋川
宣真 15－9 薫英
▼準決勝
住吉学園 12－7 摂津
四天王寺 21－6 宣真
▼決勝
四天王寺 20（11－3、9－5）8 住吉学園

第5回北信越国体

（8月25、26日）
〈成年男子〉
▼決勝
全富山 25（13－11、12－9）20 福井教員
〈少年男子〉
▼決勝
全石川 25（9－9、8－8、4－1、4－0）18 富山選抜
〈少年女子〉
▼決勝
全石川 14（3－4、11－4）8 全富山

第11回東北総体

〈成年男子〉
▼1回戦
福島聖光ク 38－34 全青森
宮城教員 32－24 山形ク
▼2回戦
湯沢ハンドク 32－28 福島聖光ク
花巻ク 37－31 宮城教員
▼決勝
花巻ク 27（11－16、16－10）26 湯沢ハンドク
〈成年女子〉
▼1回戦
大曲スポーツク 36－15 全青森
▼2回戦
聖和ク 26－10 米沢女高OG

ムネカタ 33－20 大曲スポーツク
岩手桐花ク 28－10 聖和ク

▼決勝
ムネカタ 23（15－3、8－11）14 岩手桐花ク

〈少年男子〉

▼1回戦
古川工高 29－22 山形選抜
全青森 18－15 全岩手

▼2回戦
古川工高 29－16 大曲高
全青森 26－16 全福島

▼決勝
古川工高 25（14－12、11－9）21 全青森

〈少年女子〉

▼1回戦
山形選抜 13－13 秋田和洋女高
全青森 26－14 全岩手

▼2回戦
全福島 15－12 山形選抜
聖和学園吉田 22－16 全青森

▼決勝
聖和学園吉田 14（8－4、6－2）6 全福島

埼玉県高校1年生技術研修大会

（8月19～21日）

○男子A決勝トーナメント

▼1回戦
春日部工 11－10 城西川越
浦和南 14－9 羽生一
西武台 16－11 春日部東
浦和実 11－10 川口工
浦和学院 12－9 埼玉栄
川口青陵 21－6 川口北
浦和西 12－7 伊奈学園
大宮 16－10 筑波大坂戸

▼2回戦
浦和南 14－6 春日部工
浦和実 10－8 西武台
浦和学院 12－12 川口青陵（3PTC2）
浦和西 21－11 大宮

▼5～8位決定戦
春日部工 11－10 西武台
川口青陵 21－13 大宮
大宮 18－15 西武台
川口青陵 16－8 春日部工

▼準決勝
浦和実 16－9 浦和南
浦和学院 18－6 浦和西

▼3位決定戦
浦和西 8－7 浦和南

▼決勝
浦和学院 12（5－3、7－4）7 浦和実

［順位］①浦和学院②浦和実③浦和西④浦和南⑤川口青陵⑥春日部工⑦大宮⑧西武台

○男子B決勝トーナメント

▼1回戦
朝霞 15－11 岩槻

▼2回戦
朝霞 14－12 草加
城北埼玉 10－9 春日部
大宮北 14－13 春日部共栄
浦和市立 15－5 北本
川口東 15－5 県立坂戸
上尾沼南 14－6 和光
越谷南 19－10 浦和工
熊谷 13－8 志木

▼3回戦
朝霞 16－12 城北埼玉
浦和市立 18－6 大宮北
上尾沼南 9－8 川口東
越谷南 14－9 熊谷

▼準決勝
浦和市立 14－7 朝霞
越谷南 12－8 上尾沼南

▼決勝
浦和市立 16（6－5、10－4）9 越谷南

○女子A決勝トーナメント

▼1回戦
三郷北 8－4 川口北

▼2回戦
浦和南 10－5 三郷北
川口青陵 21－4 庄和
草加東 10－9 浦和西
羽生一 17－8 幸手商

▼5～8位決定戦
浦和西 19－8 幸手商
三郷北 12－8 庄和
庄和 8－7 幸手商
三郷北 13－6 浦和西

▼準決勝
川口青陵 16－4 浦和南
羽生一 13－5 草加東

▼3位決定戦
浦和南 14－9 草加東

▼決勝
川口青陵 21（12－2、9－4）6 羽生一

○女子B決勝トーナメント

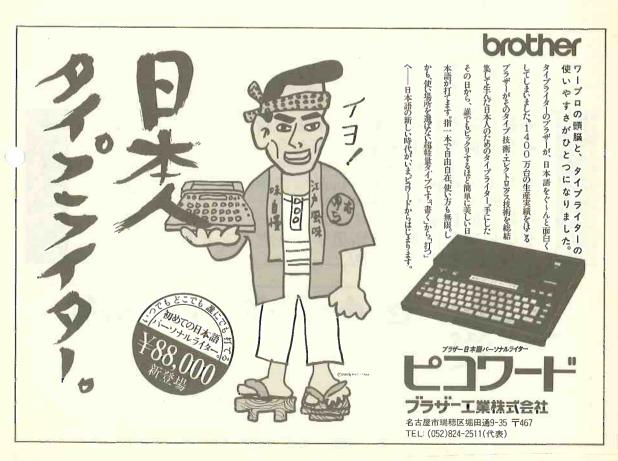
▼1回戦
浦和学院 9－3 秩父
八潮 18－14 浦和市立
筑波大阪戸 16－6 大宮北

▼2回戦
伊奈学園 10－1 浦和学園
川口女 11－7 八潮
川口東 12－8 深谷一
行田女 15－4 筑波大阪戸

▼準決勝
川口女 12－8 伊奈学園
川口東 10－10 行田女（3PTC2）

▼決勝
川口女 12（9－4、3－5）9 川口東

12月～2月のハンドボールイベント

◆第16回全日本自衛隊選手権大会（12月5日～8日・東京・駒沢屋内競技場）
◆第36回全日本総合選手権大会（12月18日～22日・東京・駒沢体育館，駒沢屋内競技場）
◆日本・中国・韓国対抗高校生国際親善大会（12月21日～23日・大阪府立体育館，大阪中央体育館）
◆第4回日本リーグオールスター戦（1月13日・駒沢体育館）
◆第16回全日本実業団男子トーナメント大会（2月9日～11日・京都府立体育館）

ハンドボールをより強く！より広く！

―賛助会の輪を広げよう―

この素晴らしいハンドボールを、１人でも多くの人に知ってもらいたい、という趣旨から設けられた賛助会も、お蔭様で１年足らずで法人会員18社（うち特別法人会員17社）個人会員159名（うち特別個人会員50名）に達しました。

個人会員の年会費を１口5,000円に抑えたのは、できるだけ多くの人にハンドボールを知ってもらいたい、学校を卒業したあとハンドボールから遠ざかってしまった人にもっとハンドボールをエンジョイしてもらいたい、という考え方からそうしたのですが、日本リーグ関係者を初め特別法人会員の方々には、その牽引者として、多くのご無理をお願いしております。

賛助会費収入から機関誌増刷及び送料等の経費を控除した残余は、ナショナルチームの強化や普及事業などの財源に充てられていますが、選手強化には相当な金がかかるうえ、ロス・オリンピックで痛感されたように若手選手（高校生から中学生まで）の育成強化にはこれまで以上に金がかかります。

また、日本協会は、小学生に対するハンドボールの普及を当面の最大の課題としています（これが頂点強化にもつながります。）それが親子ハンドボールにつがって、ハンドボールの輪はますます大きくなっていく……。

どうか賛助会員の皆さんも、そのような輪の核となって、その輪をもっともっと大きくしていって欲しいと思います。お一人が２名、３名の知人を誘っていただければ、会員の数は直ちに数倍になります。

会員の特典として、魅力あるものを追加すべく具体案を練っています。あらためてアンケートをとる予定でおりますので、その節はよろしくお願いします。

――会員証の切替えは１月からです――

現在の会員の方には、間もなく振替用紙をお送りします。お振込あり次第新しい会員証をお送りしますので、よろしくお願いします。

特別賛助会員御芳名

（受付順、太字は前号以降。敬称略。）

※特別法人会員　㈱デサント　アシックス㈱　新日本製鉄㈱　㈱三陽商会　中村荷役運輸㈱　㈱三景　ジャスコ㈱　大同特殊鋼㈱　ブラザー工業㈱　日本ビクター㈱　大田印刷㈱　大崎電気工業㈱　日新製鋼㈱　㈱日立製作所栃木工場　立石電機㈱　日鉄建材工業㈱　**湧永製薬㈱**

※特別個人会員　滝沢　武（滝沢ハム・栃木市）　斎藤英四郎（日本協会・東京都）　荒川清美　武田喜三　大野金一（同）　竹内史衛（淡青社公認会計士事業所・東京都）　伊藤克己（群馬県）　黒田富郎（日本協会・日野市）　平岡秀雄（日本協会・東京都）　岡村千春（所沢市）　渡辺慶寿（日本協会・宇都宮市）　阿部二郎（同・茨城県）　滝口三郎（同・東京都）　北川勇喜（同・横浜市）　大西武三（同・茨城県）　中沢重夫（同・東京都）　金原至（同・氷見市）　林達夫（同・名古屋市）　正畠明雄（広島市）　川上整司（日本協会・狭山市）　村田弘（同・堺市）　岡前義春（同・府中市）　富永劭（同・水戸市）　安藤純光（同・日野市）　山本佐知子（ノタリーノ・東京都）　嶋田新太郎（氷見市）　木下浩次（名古屋市）　田中滋章（日本協会・名古屋市）　小袋是郎（福岡市）　入江信太郎（日本協会・茨城県）　柳井文治（日本協会・下松市）　山田計（日本協会・豊中市）　黒住宗晴（岡山）　福田誠（日本協会・東京都）　境井秀三（日本協会・桶川市）　高橋満年（愛媛）　伊藤和夫（日本協会・名古屋市）　梅村忠雄（名古屋市）　三鴨博（立川市）　日野　博（北九州市）　河本武夫（日本協会・松山市）　高田日呂美（日本協会・東京都）　近藤正次（岡山市）　山田　稔（日本協会・藤井寺市）　幡谷祐一（水戸市）　清水正（日本協会・甲府市）　古屋　正（甲府市）　原　信雄（東京都）　松原紀機（日本協会・米子市）　**越智　武（松山市）**

――― 財団法人日本ハンドボール協会賛助会 ―――

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二三六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五九年十一月二十五日 印刷
昭和五九年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話代表（481）二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）